

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023(愛称:京からはばたく, 学びプラン)」の進捗状況概要版  
(令和2年度に進捗のあった主な事業)

## 柱1 京都で学ぶ魅力の向上

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和2年度進捗状況	令和3年度以降の取組
京都ならではのフィールドにおける新たな単位互換科目の開設 【(1)-①(P15)】	京都ミュージアムPBL科目	京都市と(公財)大学コンソーシアム京都の共同実施による、京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度より新規開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集める多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	「京都ミュージアムPBL科目」は4大学-4施設による4科目を開講し、全科目合計で53名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学-4施設による4科目を開講する。</li> <li>・「京都世界遺産PBL科目」は4大学・4所有者による5科目を開講する。</li> <li>・いずれもオンラインと対面での活動を併用して実施する。</li> <li>・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。</li> </ul>
	京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	「京都世界遺産PBL科目」は6大学・6所有者による7科目を開講したが1科目がコロナの影響により閉講となった。全科目合計で85名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。	
FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)事業の充実 【(3)-①(P17)】	大学教職員の能力開発と交流の充実	FD事業では、大学の取組等の情報発信や参加者間交流を目的とするFDフォーラム、階層別分野別研修プログラムとしてのテーマ別研修、FDに関するテーマを設定し工夫や悩みを共有する京都FD交流会を実施。SD事業では、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境の変化を踏まえたテーマで実施するSDフォーラム、次代の大学運営を担う世代が対象のSDゼミナール、若手から中堅職員対象の能力・スキル向上型研修としてSD共同研修プログラムを実施。これらの取組を通じて、大学教職員の能力開発と交流の場を提供。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆FD事業</li> <li>・第26回FDフォーラム(オンライン開催 2/20・2/21・2/27・2/28)</li> <li>・テーマ別研修プログラム(オンライン開催 全6回6テーマ)</li> <li>・京都FD交流会(オンライン開催 全3回3テーマ)</li> <li>◆SD事業</li> <li>・第18回SDフォーラム(オンライン開催(講演のみ、分科会・情報交換会は中止) 10/25)</li> <li>・SDゼミナール(開催中止)</li> <li>・SD共同研修プログラム(オンライン開催 全7回7テーマ)</li> </ul>	引き続きFD及びSD事業を行う。実施にあたっては、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境と変化などの状況を踏まえつつ、参加者アンケートで寄せられた意見やニーズを分析しながら、より充実した企画を展開する。また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸とし、可能であれば一部対面での開催も考える。

## 柱2 大学・学生の国際化の促進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和2年度進捗状況	令和3年度以降の取組
戦略的な留学生誘致の展開 <b>【(1)-①(P18)】</b>	全国から京都へ！ 留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏向け京都進学説明会を対面からオンラインに変更開催(12校で留学生計564名)した。</li> <li>・留学生の京都学び体験ツアーはコロナ禍により見送った。</li> <li>・首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアーはオンライン交流会に変更開催(首都圏:9校, 京都側:10校)した。</li> <li>・誘致活動のためのオンラインコンテンツ強化のため「留学生ショートムービーコンテスト2020」を開催(応募作品数:51)した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏を中心として、京都進学説明会についてはオンラインを基本とし、留学生・教職員のツアーについては状況を見極めながら対面実施(難しい場合はオンライン対応等)できるよう取組を進める。</li> <li>・留学生ショートムービーコンテストについても引き続き実施する。</li> </ul>
留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化 <b>【(2)-②(P19)】</b>	京都市外国籍市民総合相談窓口運営	京都で暮らす外国籍市民の方の相談事などに対して、適切な窓口への案内等を行うための相談業務を、京都市国際交流会館において実施。	これまでの取組に加え、同窓口の機能の一つである「行政通訳相談事業」においては、新型コロナウイルス感染症対応として、保健福祉局所管の「京都市帰国者・接触者相談センター」や各種助成金の申請において、電話通訳を担った。	引き続き、同窓口において相談業務を実施する。
留学生の就職支援・マッチング事業の強化 <b>【(3)-①(P20)】</b>	留学生就職サポート事業 ※「留学生の就職支援・マッチング事業」から事業再構築に伴い名称変更	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の登録数                留学生374名, 企業208社(2月末時点)</li> <li>・セミナー・交流会開催数(オンライン)                留学生向け3回, 企業向け3回, 交流会3回</li> <li>合計参加者数192名(留学生112名, 企業80名), 1つの参加型イベントでは28名の留学生が参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターによるオンラインも活用した丁寧な個別相談に特化した事業に再構築</li> <li>・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の運営</li> <li>・経済団体や関係団体と連携しながら企業への啓発</li> </ul>
日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実 <b>【(4)-①(P20)】</b>	「京(みやこ)グローバル大学」促進事業	留学生誘致をはじめ、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化に向けた取組を点ではなく面として支援を広げていくことを目的に、留学生増につながる取組を行う大学を支援。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年7月7日に委員会を開始し、同年7月に7件の採択を決定(池坊短期大学, 大谷大学, 京都市立芸術大学, 京都女子大学, 京都精華大学, 京都ノートルダム女子大学, 佛教大学)。</li> <li>・採択した7大学の支援を通して、国際化に係る新たな取組を進める大学を支援。</li> </ul>	引き続き、国際化に資する取組を行う認定7大学を支援。

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和2年度進捗状況	令和3年度以降の取組
<p>学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援【(1)-①(P21)】</p>	<p>京都学生祭典</p>	<p>京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和2年10月11日に初のオンラインにて開催。当日は一部企画を平安神宮前・岡崎プロムナードから無観客でライブ配信するハイブリッド形式で運営し、特設サイトおよびYouTube Liveで多くの視聴回数・閲覧数を獲得。 【最終実績値】 YouTube視聴回数:27,163回、特設サイト閲覧数:39,478PV</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、新歓活動が制限され新規実行委員数が例年より大幅に減少していることから、まずは実行委員数の確保に向けて、適宜サポートする。 また、本祭については、オンラインと現地開催のハイブリッド形式で開催予定。なお、一部企画において社会情勢が好転すれば、人数制限を設けつつ、観客を入れて実施することを検討している。</p>
<p>学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援【(1)-①(P21)】</p>	<p>京都学生広報部</p>	<p>ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS (Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。</li> <li>よしもと祇園花月との連携企画や、北野天満宮協力の下、受験生を対象にした合格祈願絵馬プロジェクトを実施した。</li> </ul>	<p>引き続き、学生目線による大学生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。</p>
<p>学生Place+(ぶらす)の更なる活用促進【(1)-②(P22)】</p>	<p>学生Place+(輝く学生応援プロジェクト)</p>	<p>キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行く、京都のまちの活性化につながる活動に対して、活動場所の提供や専門コーディネーターによる助言・指導等を通じた支援を実施。</p>	<p>キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行く、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。 (学生Place+来場者数(12月末現在):10,604名)</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、学生が大学の枠を超えて京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。</p>
<p>学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充【(4)-①(P24)】</p>	<p>学生向けアプリ(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の開発・活用</p>	<p>京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年3月26日に配信を開始。多くの学生にアプリをダウンロードし活用いただけるよう広報に力をいれた。 (令和3年2月末時点DL数:8,876件)</li> <li>アプリの運用を行い、本アプリを利用している学生を対象としたアンケート結果を踏まえ、必要に応じて仕様の改善を図った。</li> </ul>	<p>より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。</p>

#### 柱4 学生の進路・社会進出の支援

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和2年度進捗状況	令和3年度以降の取組
地域企業と連携した 担い手育成 【(1)-①(P25)】	京都企業と連携した次代の京都を担う人財の育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留学生がチームで、京都企業と連携して課題に取り組むPBLプログラムを実施。	留学生を含む学生のチームが、京都企業と連携したPBLにより、企業の提示する課題の解決や学生から企業への提案などにオンラインも活用しながら取り組んだ。 (プロジェクト数:11, 参加者:12大学・69名(うち留学生12名))	引き続き、オンラインも活用しながら留学生を含む学生のチームと京都企業が連携したPBLを実施する。
地域企業と学生の出会いの場づくり 【(1)-③(P25)】	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。	インターンシップ、見学会等の実施(回数:49回, 参加者52名, 参加企業30社)	引き続き、京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進するため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、オンラインを中心に実施する。
働き方改革実践企業等の学生への周知 【(2)-①(P26)】	京の企業働き方改革総実践プロジェクト	地域企業が働き方改革の取組状況を自己診断し、その結果を企業の魅力として、WEBサイト「京のまち企業訪問」上で発信する「京の企業『働き方改革』自己診断制度」を実施。	企業の働き方改革の取組状況について、WEBサイト「京のまち企業訪問」を活用し発信した。 (取組状況公開企業数:3,026社)	引き続き、企業の魅力を発信するため、WEBサイト「京のまち企業訪問」において、働き方改革に取り組む地域企業の情報を発信する。なお、次年度以降は、京都中小企業担い手確保・定着支援事業の一環として、実施する。

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和2年度進捗状況	令和3年度以降の取組
リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実 【(1)-①(P27)】	リカレント教育の推進支援, 実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで, リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学が実施するリカレント教育の支援策及び大学コンソーシアム京都が実施するリカレント教育等について「リカレント教育企画検討委員会」において検討した。</li> <li>・各大学のリカレント教育の取り組みを広く発信していくことを目的として, 令和3年度からのリレー講座の実施を検討・企画した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規に「大学リカレント教育リレー講座」として6大学6講座を実施する。</li> <li>・引き続き, 各大学が実施するリカレント教育の支援策及び大学コンソーシアム京都が実施するリカレント教育等について検討する。</li> </ul>
「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生 【(3)-⑤(P29)】	京都駅東部エリアの活性化	京都市立芸術大学等が移転される京都駅東部エリアにおいて, 芸術大学や, 下京渉成小学校区の5学区によるエリアマネジメントなど, 地域や関係するまちづくり団体等とも連携し, 文化芸術を基軸としたまちづくりを進め, 地域活性化の機運を高めるとともに, 「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生を実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「京都駅東部エリアのカルチャー」を発信。『5to9』発行(1月～3月)</li> <li>・京都駅東部エリア「京都七条通めぐりスタンプラリー&amp;アートフェスタ」中止(2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術とまちづくりの更なる融合を促し, 現在, 形成中のネットワークの充実・拡大を図るため, 引き続き, 京都駅東南部エリアを含む京都市立芸術大学移転予定地周辺の地域・イベント情報を盛り込んだ広報誌により地域に向けて情報を発信する。</li> <li>・作品の展示・発表の場として地域資源を活用できるよう, コーディネートするなど, 文化芸術・伝統産業の多様な担い手たちが地域の中で活躍できる場づくりにも取り組む。</li> </ul>
大学と地域の連携強化 【(4)-①(P29)】	「学まち連携大学」促進事業	大学等の教育・研究成果の蓄積や学生の活力を地域の課題解決や活性化につなげるとともに, 地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を, 大学等の組織的な取組として定着させ, 更に充実・発展させることを目的に, 京都市内で地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発・実施又は充実・発展に取り組む大学等を支援。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年6月27日に委員会を開始し, 同年7月に4件の採択を決定した(スタートアップ型:2件(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部, 花園大学), 発展型:2件(京都橘大学, 龍谷大学))。</li> <li>・採択した4大学の支援を通して, 大学による地域連携の取組の推進を図る。</li> </ul>	引き続き, 採択した4大学(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部, 花園大学, 京都橘大学, 龍谷大学)の支援を通して, 大学による地域連携の取組の推進を図るとともに, 「大学×地域連携サミット」を通して取組を発信する。
学生の力をいかした住民自治の活性化 【(4)-③(P29)】	大学生の力を生かした田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅(伏見区)に学生が入居し, 自治会活動に参加することで, 地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては, 大学, 当該市営住宅自治会及び本市が連携協定を締結し, 事業を推進。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため, 実施事業の規模縮小及び延期を行った。</li> <li>・関係者協議については, オンラインで実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更に1戸の住戸を追加運用し, 事業拡大を行う(合計で7名入居予定)。</li> <li>・引き続き実施事業の協議については, オンラインで行う。</li> </ul>

柱6 国内外への魅力発信の強化

推進計画該当項目	事業名	事業概要	令和2年度進捗状況	令和3年度以降の取組
<p>学生による京都で学ぶ魅力の発信 【(1)-②(P31)】</p>	<p>京都学生広報部 (再掲)</p>	<p>ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS (Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力発信した。</li> <li>・よしもと祇園花月との連携企画や、北野天満宮協力の下、受験生を対象にした合格祈願絵馬プロジェクトを実施した。</li> </ul>	<p>引き続き、学生目線による大学生生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。</p>
<p>大学・学生向け広報の充実 【(3)-③(P32)】</p>	<p>学生向けアプリ  (「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の開発・活用 (再掲)</p>	<p>京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、学生向けの各種支援策や、感染拡大防止に向けた学生等への注意喚起について、アプリを活用し、発信している。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に係る情報発信に加え、京都市や大学コンソーシアム京都、経済団体等が取り組む学生向けの各種情報、学生団体・サークルにおける活動内容やメンバー募集等の記事をニュースで発信することにより、学生の主体的な活動の広報支援も行っている。</li> </ul>	<p>コロナ禍においても、引き続き、京都市や大学コンソーシアム京都、経済団体等が取り組む学生向けの各種情報、学生団体・サークルにおける活動内容やメンバー募集等の記事をニュースで発信することにより、学生の主体的な活動の広報支援していく。</p>

## 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023(愛称:京からはばたく, 学びプラン)」の進捗状況

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 大学間連携による学びの充実	① 京都ならではのフィールドにおける新たな単位互換科目の開設	新規	京都ミュージアムPBL科目	京都市と(公財)大学コンソーシアム京都の共同実施による、京都ならではのフィールドにおける新たなアクティブラーニングによる単位互換科目として、令和2年度より新規開設。文化都市京都の利点を活かし、京都に集める多様な博物館(ミュージアム)をフィールドに京都の持つ魅力的な文化を学びながら、そこにある様々な課題に取り組むことでチームワークを活かし、課題解決に向けたリーダーシップを発揮できる人材を育成。	R2	「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4施設による4科目を開講し、全科目合計で53名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。	・「京都世界遺産PBL科目」は4大学・4所有者による5科目を開講する。 ・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4施設による4科目を開講する。 ・いずれもオンラインと対面での活動を併用して実施する。	大学コンソーシアム京都
			京都世界遺産PBL科目	京都の世界遺産をフィールドにPBLを展開する科目を実施。	H27	「京都世界遺産PBL科目」は6大学・6所有者による7科目を開講したが1科目がコロナの影響により閉講となった。全科目合計で85名が受講した。授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。	・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。	大学コンソーシアム京都
	② 単位互換制度におけるグローバル科目の開設	新規	グローバル科目開設に向けた検討	大学の国際化に即したグローバル科目開設に向けた検討を実施。	R1	世界遺産PBL科目やミュージアムPBL科目において留学生の受講を促すことを試みたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響が不透明であったため積極的な促進を控えた。	世界遺産PBL科目やミュージアムPBL科目において留学生の受講を促し、教育効果を検証する。	大学コンソーシアム京都
	③ 新たなe-ラーニングの仕組みの研究	新規	新たなeラーニングの仕組みづくりの検討	新たなeラーニング等、ICTの活用について検討を実施。	R1	多くの大学でオンライン授業が実施された状況を踏まえ、単位互換において積極的なオンライン科目の提供を後押しすべく、既存の枠組みを発展させた補助金制度「ブラザ・オンライン科目」を制定した。	各大学の単位互換授業の実施状況を調査・分析し、「ブラザ・オンライン科目」を軸としたオンライン科目のさらなる提供促進および受講促進策を検討する。	大学コンソーシアム京都
④ 大学間連携の取組を活用した、教員免許等資格取得に必要な科目の履修支援	新規	日曜講座開設による京都全体の教職課程の充実	京都教育大学と連携し、キャンパスプラザ京都において、社会人を含めた学生が受講しやすい時間帯(日曜)における教員免許の資格取得に必要な単位互換科目を開講。	R2	教職課程の日曜講座として、4科目(教職論、教育心理学等)を開講する予定であったが、コロナの影響により4科目すべてが開講中止となった。	教職課程の日曜講座として、4科目を開講する。	大学コンソーシアム京都	

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 大学間連携による学びの充実	⑤ 京都市大学のまち交流センター(愛称:キャンパスプラザ京都)の利用促進	継続	大学のまち交流センター管理運営	大学における学術研究の成果, その他の知的資産を活用することにより, 豊かな地域社会の形成に資するため, 大学相互の間及び大学と産業界, 地域社会等との間の連携・交流を促進する活動等に活用。	H12	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な点検及び随時の適切な対応により, 快適な利用環境を維持し, 利用者からの要望等に迅速かつ細やかに対応した。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために, 施設内の消毒, 使用人数制限や利用者への注意喚起等必要な措置を行った。</li> <li>キャンパスプラザ京都において, 学生がオンライン授業を受講するために, Wi-Fi整備や貸室の無料開放等, 学生の学習環境支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理委託業者との連携を十分図り, かつ施設設備の更新と改修を適切に行うことで, 快適な利用環境を維持し, 施設の稼働率向上に繋げる。</li> <li>大型空調設備の更新工事を円滑に完了し, 快適な利用環境の安定的な提供を促進する。</li> <li>引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し, 感染拡大防止のための必要な措置を講じる。</li> </ul>	京都市 大学コンソーシアム京都
(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	① 障害のある学生が学びやすい環境づくり	充実	ノートテイク養成講座・パソコン(PC)テイク養成講座	テイク(支援者)とその利用者の体験談やノートテイク・PCテイクの基本理解の講義, 実践を通して, 大学教職員・学生に情報保障に関するスタートアップの機会を提供。	H16	<p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い, 令和2年8月21日にオンラインにて開催。(参加者数22名)</p> <p>コロナ禍で多くの大学がオンライン講義での対応を求められる中, オンラインを用いて遠隔で文字情報保障を行う手法を学ぶ講座を実施した。</p>	引き続きノート・PCテイク講座を開催する。コロナ禍を念頭に置き, オンライン等の開催形態, 開催時期, 開催内容についてはあらためて検討する。	大学コンソーシアム京都
			関西障害学生支援担当者懇談会(KSSK)	関西にある大学の障害学生支援に携わる実務担当者の情報交換とネットワーク構築を目的に開催。	H20	<p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い, 令和2年9月4日に第25回KSSKをオンラインにて開催(参加者数41名)。</p> <p>コロナ禍における各大学の障がい学生支援の状況や, 秋学期に想定される課題とその解決方策等について情報交換を行った。</p> <p>令和3年3月5日に第26回KSSKを開催予定。</p>	コロナ禍を念頭に, オンライン等の開催形態を検討するとともに, 参加者からのアンケート結果等も参考に, ニーズに合ったテーマを設定して, 引き続き実施する。	大学コンソーシアム京都
			みやこユニバーサルデザインアドバイザーの派遣	ユニバーサルデザインの考え方を採り入れ, 実践しようとする各種団体, 学校, 企業等に対し, 必要な助言や支援を行うことにより, 様々な分野や地域における主体的なユニバーサルデザインの取組を促進。	H18	派遣回数:1回 ・西京高等学校附属中学校	引き続き, 各種団体, 学校, 企業等から申請があった際に, 適任となる講師を派遣し, ユニバーサルデザインの取組を促進する。	京都市
			移動支援事業	単独で外出が困難な障害のある方への移動を支援(大学等への通学の支援を含む)。	S51	移動支援事業 実利用者数 3,468人(大学等への通学の支援を行っている者を含む)(令和2年4~12月請求受付分)	引き続き, 外出時における移動中の支援等を行うことにより, 障害のある方の自立と社会参加を促進する。	京都市



柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	② 高校教員を対象とした障害のある学生の受入れに関する懇談会の開催	新規	大学における障害学生支援に関する高校教員との懇談会	障害学生支援に関して高等学校や特別支援学校と大学がつながりをもつ機会が少ないという現状に鑑み、高等学校等の教員と大学において障がい学生支援に携わる教職員の情報交換、交流を目的とした懇談会を開催。	R1	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和2年12月4日にオンラインにて開催。(参加者数:大学関係者11名、高校関係者21名)。高校のインターネット環境の事情により、オンライン参加が難しい場合には、キャンパスプラザ京都で対応した。	引き続き、コロナ禍を念頭にオンライン等の開催形態も検討し、実施する。また、開催広報にも力を入れて取り組み、参加者の拡大を図る。	大学コンソーシアム京都
	③ 大学と連携した学生の安心・安全の確保	充実	大学における消費生活講座の開講	大学生が契約トラブルなどの消費者問題についての現状認識を高め、その解決のために必要な法的知識を学ぶとともに、自らのライフスタイルについて考えを深めることを目的として、消費者問題に関する講座を寄付講座として開設。	H22	同志社大学において、春学期毎週月曜日(令和2年4月13日～令和2年7月27日)、秋学期毎週月曜日(令和2年9月28日～令和3年1月25日)に開講	引き続き同志社大学において通年で開講するほか、現在、佛教大学教育学部教育学科において、若年者に多い消費者トラブル、消費者契約法、消費者市民社会等を段階的に習得していく消費者教育講座を開講することで調整している。	京都市
			世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動	市民、京都市、京都府警察等との連携により展開している「世界一安心安全・おもてなしのまち京都市民ぐるみ推進運動」について、地域の特性、課題等に応じた行政区単位の犯罪防止等の取組をすべての行政区で展開するなど安心・安全なまちづくりのための取組を推進。	H26	自転車盗被害を抑止するため、大学を対象として、防犯カメラ設置への補助を行った。	引き続き、大学生を中心に被害が多発している自転車盗の被害防止啓発を行う。	京都市
	④ 学生が安心・安全に学ぶための相談体制等の充実	充実	学生向けアプリ(「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の開発・活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。	R1	・令和2年3月26日に配信を開始。多くの学生にアプリをダウンロードし活用いただけるよう広報に力をいれた。(令和3年2月末時点DL数:8,876件) ・アプリの運用を行い、本アプリを利用している学生を対象としたアンケート結果を踏まえ、必要に応じて仕様の改善を図った。	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 「安心して安全に学べる京都」の充実	④ 学生が安心・安全に学ぶための相談体制等の充実	充実	新入生ガイダンス及び大学内等における街頭啓発活動	大学生に対し、京都市内における居酒屋等の客引き行為や悪質スカウトによる犯罪被害等の現状を説明し、「客引きのアルバイトをしない」、「客引きを利用しない」、「スカウトについていけない」、「ブラックバイト相談窓口」等の啓発を実施。	H27	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、ガイダンスや大学周辺での啓発は実施せず ・重点対策大学へのポスターの掲示依頼 ・「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT (キョーデント) における啓発 ・「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT (キョーデント) において「客引きをしない、ついていけない。」といった記事の掲載による啓発	・大学コンソーシアム京都加盟校へのポスター掲示依頼 ・「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT (キョーデント) における啓発 ・各種ガイダンスの実施状況を見て、可能であればガイダンスでの啓発を実施	京都市
			犯罪被害者支援に係る大学連携講義等の実施	犯罪被害者に関する大学講義を(公財)大学コンソーシアム京都の単位互換科目とするなど、啓発や人材育成を実施。	H23	京都産業大学で「被害者学」(前期)、「被害者施策」(後期)の講義を実施。	京都産業大学で「被害者学」(前期)、「被害者施策」(後期)の講義を実施予定。	京都市
			学生向け消費者被害に関する情報交換メーリングリストを活用した情報発信等	大学コンソーシアム京都加盟(市内)大学に消費問題に関する注意喚起を促す情報誌「京・安心安全情報」を送付する。また、趣旨に賛同いただいている京都府内の大学学生課、京都市・京都府の消費生活センター、弁護士会の間において、学生向け消費者被害に関する情報交換メーリングリストを作成し、適時、消費者被害情報等の共有を実施。	H30	大学コンソーシアム京都加盟大学への若者向け消費者トラブル等に関する啓発チラシの送付。情報誌「京・安心安全情報」を年6回送付するほか、「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリのKYO-DENTを活用した情報発信を実施。	引き続き学生向けの消費者被害等に関する情報発信・啓発を行う。	京都市
			京都中小企業担い手確保・定着支援事業	ワークショップ形式で労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発等を目的としたセミナーを開催。また、ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応。	H28	・「働くルールを知るセミナー」の開催(回数:1回、参加者:93名) ・「ブラックバイト相談窓口」での対応(相談件数:3件)	引き続き、労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発や、ブラックバイトの根絶に向け、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、オンラインを中心に実施する。	京都市
			自転車のルール・マナー向上に関する取組	大学生の自転車事故を防止するために、大学生に対して自転車のルール・マナーの向上を図るための啓発等を実施。	H30	自転車ルール・マナー冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」の配布等を実施 WEB対応を希望する大学へは、同冊子のデータを提供	引き続き、大学生に対する啓発等を実施	京都市

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体		
(2)	「安心して安全に学べる京都」の充実 ⑤ 災害時における学生の安全の確保	継続	災害時における学生の安全の確保	大規模災害時の学生等を含む市民の安全を確保するため、京都市地域防災計画に基づき、地域における防災訓練の実施や、各大学・京都市大学のまち交流センター(キャンパスプラザ京都)における大規模災害に備えた安全対策や非常用物資の備蓄等を推進。	-	各区等において、避難所運営訓練等の防災訓練を実施。	引き続き、各区等における防災訓練を行う。	京都市		
(3)	大学経営・運営の支援	①	FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)事業の充実	大学教職員の能力開発と交流の充実	FD事業では、大学の取組等の情報発信や参加者間交流を目的とするFDフォーラム、階層別分野別研修プログラムとしてのテーマ別研修、FDに関するテーマを設定し工夫や悩みを共有する京都FD交流会を実施。SD事業では、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境の変化を踏まえたテーマで実施するSDフォーラム、次代の大学運営を担う世代が対象のSDゼミナール、若手から中堅職員対象の能力・スキル向上型研修としてSD共同研修プログラムを実施。これらの取組を通じて、大学教職員の能力開発と交流の場を提供。	H7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆FD事業</li> <li>・第26回FDフォーラム(オンライン開催 2/20・2/21・2/27・2/28)</li> <li>・テーマ別研修プログラム(オンライン開催 全6回6テーマ)</li> <li>・京都FD交流会(オンライン開催 全3回3テーマ)</li> <li>◆SD事業</li> <li>・第18回SDフォーラム(オンライン開催(講演のみ、分科会・情報交換会は中止) 10/25)</li> <li>・SDゼミナール(開催中止)</li> <li>・SD共同研修プログラム(オンライン開催 全7回7テーマ)</li> </ul>	引き続きFD及びSD事業を行う。実施にあたっては、国の文教政策や高等教育機関を取り巻く環境と変化などの状況を踏まえつつ、参加者アンケートで寄せられた意見やニーズを分析しながら、より充実した企画を展開する。また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸とし、可能であれば一部対面での開催も考える。	大学コンソーシウム京都	
		②	中小規模大学をはじめとする大学の特色化・機能強化の支援	大学の特色化・機能強化の支援	中小規模大学をはじめとする多様な大学の個性をいかした特色化・機能強化を支援するため、各大学の現状やニーズ把握等を通じて、共同化が可能な取組・事業に関する研究や大学運営に関するノウハウを共有する仕組みづくりを推進。	R1	・教職課程の日曜講座開設に向けて準備・調整を行ったが新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により取り止めとなった。	・引き続き教職課程の日曜講座開設に受けての準備・調整を進める。 ・その他共同化が可能な取組等について検討を行う。	大学コンソーシウム京都	
		③	大学コンソーシウム京都における情報収集・発信機能の強化	充実	高等教育の動向調査	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査し、大学へ情報提供。	-	新型コロナウイルス感染症対策に取り組む各加盟校の要望を取りまとめ、財団と京都市により国への共同要望書を提出した。	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査する。	大学コンソーシウム京都
		④	大学コンソーシウム京都加盟校への高等教育に関する情報提供の充実	充実	高等教育の動向調査、財団事業の影響分析	国や自治体、高等教育機関などにおける高等教育の動向を調査し、大学へ情報提供。また、高等教育環境が著しく変化中、指定調査課題等を活用し、財団事業の調査・研究を進め、国の動向等と併せて調査分析し、施策に反映。	-	指定調査課題等を活用し、財団事業の調査・研究を2力年で実施している。研究成果は報告書として取りまとめ、大学へ提供する予定。	国等の動向に対応するため、指定調査課題を設定し、調査・研究を進める。	大学コンソーシウム京都

柱1 京都で学ぶ魅力の向上

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(3) 大学経営・運営の支援	⑤ 大学への寄付の増進	継続	大学への寄付の増進	平成20年度税制改正に基づき、国立大学法人、公立大学法人、学校法人等に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定(※)する仕組みを導入することにより、京都の大学に対する寄付の増進を図り、民間からの大学支援を促進。 ※ 寄付金を受領する団体からの申請に基づき、所得税の寄付金控除の対象となる寄付金のうち、市民の福祉の増進に寄与する寄付金であると認められるものを指定。	H21	現在、22の学校法人に対する寄付金を京都市の個人市民税の寄付金控除の対象となる寄付金として指定している。制度の周知に関しては、ホームページで行っている。	引き続き、制度の周知をホームページ内で行っていく。	京都市
(4) 大学施設整備の支援・誘導	① 大学施設整備の支援・誘導	充実	大学施設整備支援事業	大学からの施設整備等についての相談を受け、大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を実施。 また、都市計画マスタープランや持続可能な都市構築プランにおいて、大学の機能充実を明確に位置付け、施設整備の更なる支援を実施。	H7	各大学の相談に応じて大学が行う施設整備に技術的な助言等を行うとともに、施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を行った。	引き続き、各大学の相談に応じて施設整備の支援・誘導を行う。	京都市
						「市街化調整区域における地区計画の運用基準」の改定において、「大学施設整備」を類型として位置付け(令和3年度に改定運用基準を施行予定)	施設整備に必要な各種手続き等が円滑に進むよう関係各課と調整を行うなど、施設整備の支援・誘導を行う。	京都市

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施, 体制の充実)	充実	全国から京都へ! 留学生の戦略的誘致事業	更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏向け京都進学説明会を対面からオンラインに変更開催(12校で留学生計564名)した。</li> <li>・留学生の京都学び体験ツアーはコロナ禍により見送った。</li> <li>・首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアーはオンライン交流会に変更開催(首都圏:9校, 京都側:10校)した。</li> <li>・誘致活動のためのオンラインコンテンツ強化のため「留学生ショートムービーコンテスト2020」を開催(応募作品数:51)した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏を中心として、京都進学説明会についてはオンラインを基本とし、留学生・教職員のツアーについては状況を見極めながら対面実施(難しい場合はオンライン対応等)できるよう取組を進める。</li> <li>・留学生ショートムービーコンテストについても引き続き実施する。</li> </ul>	京都市 大学コンソーシアム京都
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施, 体制の充実)	充実	海外における京都留学フェア等の開催	京都の学校(大学・日本語学校・専修学校)と連携し、海外で京都に特化した留学フェアや現地の教育機関等を回る京都留学説明会の開催、日本学生支援機構「日本留学フェア(JASSOフェア)への参加による現地情勢や日本(京都)留学意向の把握、継続した京都の知名度アップなどを通じた、幅広い京都留学意欲の喚起を実施。	H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により渡航を伴う海外での誘致活動は見送り、海外エージェントが実施するオンライン日本留学フェアに積極的に出展し、継続した留学先としての京都の知名度アップを図った。(インドネシア、韓国、香港・マカオ・マレーシア・台湾、中国、英国、タイ)</li> </ul>	これまでのプロモーション活動の実績・効果、培ってきた現地関係者との信頼関係等を踏まえ、オンラインや渡航を伴う誘致活動(可能な場合)など、効果が見込まれる手法を用いて、引き続き、海外における京都の知名度アップなどを通じた幅広い京都留学意欲の喚起を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都
			国内外留学フェアへの京都ブース出展	例年開催されている日本学生支援機構の「日本留学フェア」等に京都ブースを出展し、留学コーディネータが同ブースにおいて大学・日本語学校、留学生支援施策など、京都の留学情報を包括的に発信するとともに、現地の教育機関や留学関連事業者に働きを実施。	H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>【オンラインフェア出展実績】</li> <li>インドネシア(9、2、3月)…参加者数(説明会77名, 相談会31名)</li> <li>韓国(10,11,12月)…参加者数(説明会15名, 相談会 5名)</li> <li>香港・マカオ・マレーシア・台湾(11、2月)…参加者数(説明会96名, 相談会14名)</li> <li>英国(11月)…参加者数(説明会69名, 相談会 3名)</li> <li>中国(11月)…参加者数(瞬間最大視聴者数22,744名)</li> <li>タイ(2月)…参加者数(説明会161名, 相談会17名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本学生支援機構や海外エージェントが実施する「日本留学フェア」等に京都ブースを出展し、京都の留学情報を包括的に発信(オンライン又は渡航[可能な場合])</li> <li>・京都留学意向の把握、現地関係者との信頼関係の醸成・維持</li> </ul>	京都市 大学コンソーシアム京都

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施, 体制の充実)	充実	総合ポータルサイトの運営	大学・日本語学校などの学校情報, 住宅・就職を含む生活情報など, 京都留学に関する総合ポータルサイトを設置・運営。	H27	・「STUDY KYOTO」アクセス件数(累計)734,693件 ・特集記事の掲載数(累計)94本 ・ニュースレター配信回数(累計)27回/登録者数4,565人 ※2月末時点	京都における学生生活や就職後のイメージをより強く発信するため, 留学生の在校生・OBOGインタビュー, マガジン記事等の充実を図る。	京都市 大学コンソーシアム京都
			留学生PRチーム	京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し, 出身国等における日本留学関連の情報収集, 京都の留学情報について現地向けに発信。	H27	・現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域, 9名) ・学生アルバイトの感染予防のため在宅勤務も活用	・現役留学生のPRチームによる, 日本留学の情報発信 ・誘致や交流関係事業において体験談・パティ・翻訳等の取組を実施 ・引き続き状況に応じて在宅勤務を活用	京都市 大学コンソーシアム京都
(1) 留学生の誘致促進	① 戦略的な留学生誘致の展開 (留学生誘致戦略の改善) (効果的なPRの実施, 体制の充実)	充実	市の友好交流都市(姉妹都市, パートナーシティ)や関係機関などとの連携による情報発信	京都で学ぶ留学生を誘致するため, 本市友好交流都市(姉妹都市, パートナーシティ等)や(一財)自治体交流協会などと連携し, 「大学のまち・学生のまち」としての魅力を発信。	H26	・パートナーシティのフェの高校に京都留学のPR等を実施し, 「大学のまち・学生のまち」としての魅力を発信	本市友好交流都市(姉妹都市, パートナーシティ等)等と連携し, 「大学のまち・学生のまち」としての魅力をオンラインも活用しながら発信	京都市
			京都留学ガイドの活用	平成28年度に作成した「京都留学ガイド」について, 留学フェアや学校訪問等の際に配布するほか, ウェブサイトにもPDF版を掲載。	H28	・コロナ禍により渡航を伴う誘致活動を見送ったことから冊子増刷も見送った。 ・WEB用の学部等マトリックス表については時点修正した。	引き続き, 姉妹都市等を通じて, 「大学のまち・学生のまち」の魅力を発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都
			海外教育旅行向け支援メニューの提供	海外から京都に教育旅行で訪れる教員・学生向けに, レクチャー・キャンパスツアー・学生交流機会の提供, 文化体験プログラムの紹介などを行い, 併せて京都留学に係るレクチャーを行うことにより, 訪問者に対して留学先としての京都の魅力を紹介。	H29	新型コロナウイルス感染症拡大により, 海外からの教員等の来訪中止による事業中止	海外からの教育旅行等に合わせた京都留学説明等をアレンジし, 京都留学の魅力発信を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都
			日本語学校における進学説明会の実施	京都の日本語学校で学ぶ留学生の地域内での進学を促進するため, 日本語学校において大学や専門学校による学校説明や個別相談などを行う進学説明会を実施。また, 大学, 専門学校と日本語学校の連携を深めるため, そうした機会を利用して, 大学, 専門学校と日本語学校の担当者が情報を交換する機会を設定。	H30	京都の日本語学校で学ぶ留学生向けのオンライン合同進学説明会を実施した(大学プレゼン, 質疑応答)[2回, 24名参加]	引き続き, 京都の日本語学校で学ぶ留学生が, 京都の大学や専門学校を知る機会の創出等に取り組む。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体		
(1)	留学生の誘致促進	②	留学生スタディ京都ネットワークの機能の強化	充実	留学生スタディ京都ネットワーク	大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都府とともに、海外から京都の大学等への留学をオール京都で促進するための組織を運営。	H27	海外からの京都留学をオール京都で促進するため、留学生スタディ京都ネットワークを平成27年5月に設立し、留学生誘致・支援に係る各種事業を実施。海外向けの京都留学PR活動や首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を対象とした誘致事業など、オンラインの手法を取り入れながら実施した。	オンラインでも効果が見込まれる取組については引き続きオンラインで実施するなど経費節減に努めながら、海外からの京都留学をオール京都で促進する各種取組を効果的・効率的に実施する。	京都市 大学コンソーシアム京都
(2)	留学生の受入環境整備	①	留学生の受入に係る大学の負担軽減への支援	充実	受入環境整備事業(ウェルカム・パッケージ)	初めて来日する留学生の生活上の不安をできる限り取り除き、勉学に専心できる環境を整えるとともに、日本人学生等市民との交流を育む契機とするため、来日直後の留学生に必要な行政手続きや生活ルール等に係る情報提供やサポートを実施。	H28	コロナ過の影響により、各大学においてガイダンスの開催が中止されたため、代替としてガイダンス資料を送付し、各大学において留学生からの問合せ対応等で活用いただいた。	春入学・秋入学の時期に合わせてオンラインも活用しながらウェルカム・パッケージを実施	京都市
(2)	留学生の受入環境整備	②	留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化	充実	外国人留学生の自転車ルール・マナーの向上に関する取組	日本の交通ルールに不慣れな外国人留学生に対し、事故を未然に防ぐため、日本の自転車ルール・マナーの向上を図るための啓発等を実施。	H30	自転車ルール・マナー冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」(英語版、中国語版)を希望する大学に配布 WEB対応を希望する大学へは、同冊子のデータを提供	令和2年度と同様に実施予定	京都市
					職員向け教職員スキルアップ研修	大学コンソーシアム京都加盟大学の職員を対象に、英語力並びに多文化理解向上のための研修を実施。	H26	・令和元年度に拡充した中国文化理解研修に加えて、東南アジア圏の文化理解研修を組み込んで実施した。(全7回、延べ75名参加) ・すべての回で対面からオンラインに変更して実施した。 ・満足度は全体平均で93.7%。	・受講者のアンケート結果等を踏まえつつ、より魅力ある研修づくりに取り組む。 ・基本的には対面開催できるよう調整を進めていく。	大学コンソーシアム京都
					京都市生活ガイドのホームページでの公開	初めて京都で生活する外国人が安心して暮らせるように、生活上の留意点を説明した「京都市生活ガイド」(日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語)を(公財)京都市国際交流協会のホームページ上で公開。 ※事業開始当時は紙媒体で配布していたが、平成28年度から紙媒体を廃止し、ホームページ上での公開に一本化。	H1	「京都市生活ガイド」を(公財)京都市国際交流協会のホームページ上で公開した。	引き続き「京都市生活ガイド」を(公財)京都市国際交流協会ホームページ上で公開する。	京都市

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 留学生の受入環境整備	② 留学生や外国人研究者及びその家族の支援体制の強化	充実	外国人留学生国民健康保険料補助事業	留学生の健康を守るため、市内在住の私費留学生を対象に、国民健康保険料の一部を補助(実施主体:(公財)京都市国際交流協会)。	H6	・申請があった市内在住の私費留学生を対象に、一人当たり月額700円を支給 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を踏まえ、申請期間の柔軟な対応等を実施 ・申請件数2,962件 ・支給件数2,679件	引き続き、状況を注視するとともに、申請があった市内在住の私費留学生を対象に、一人当たり月額700円を支給	京都市
		継続	京都市外国籍市民総合相談窓口運営	京都で暮らす外国籍市民の方の相談事などに対して、適切な窓口への案内等を行うための相談業務を、京都市国際交流会館において実施。	R1	これまでの取組に加え、同窓口の機能の一つである「行政通訳相談事業」においては、新型コロナウイルス感染症対応として、保健福祉局所管の「京都市帰国者・接触者相談センター」や各種助成金の申請において、電話通訳を担った。	引き続き、同窓口において相談業務を実施する。	京都市
	③ 留学生の住まいの提供支援	充実	留学生のための住宅情報サイトの運営	留学生が多言語(日・英・簡・繁・ハングル)で賃貸住宅を検索できるサイトを民間企業の協力を得ながら運営。	H26	4月～12月は、セッション数(2,890件)、ページビュー数(19,031件)となり、コロナ禍による国際的な人の往来が難しいなか、下半期に入り若干持ち直しを見せているものの前年度と比べ約25%減となった。	より多くの留学生に利用いただけるよう、海外フェアやSNS等を活用したPRに加え、首都圏の日本語学校を対象とした留学生誘致事業においても積極的にPRしていく。	京都市大学コンソーシアム京都
		京都地域留学生住宅保証制度	連帯保証人を見つけることができない京都地域の留学生が「連帯保証人不要」な形で住宅確保ができるよう、京都地域留学生住宅支援機構加盟大学が、制度に賛同していただける協力事業者(仲介業者・管理者・家主)と協力して留学生を支援。	H22	平成30年末で新規入会停止を行っている。(既存会員は平成31年度以降も会員資格継続)26名利用中※12月末現在	現行会員について、引き続き実施する。	大学コンソーシアム京都	
(2) 留学生の受入環境整備	④ 留学生と地域・日本人学生の交流促進	充実	外国人留学生交流等促進事業	留学生を含む市民団体などが主体となって行う留学生との交流活動に対して補助。	H22	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、令和2年度は事業中止	留学生と市民の交流及び相互理解を促進する事業に対し、補助金の交付を行う。	京都市



柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 留学生の受入環境整備	④ 留学生と地域・日本人学生の交流促進	充実	留学生と地域をつなぐ交流会	2017年度に実施した”留学生満足度調査”において課題となった”留学生と地域との交流促進”について、留学生と地域における様々なイベントを主催する地域団体等とつなげる交流会を実施し、留学生と地域のマッチング機会を創出。	R1	・コロナ禍で地域でのお祭り等の実施が困難な状況となり、また、”密”を避けるため実施見送りとなった。	・留学生支援・交流コミュニティ「kyoTomorrow Academy」とも連携しながら、留学生と留学生との交流を希望する市民活動団体等との交流機会の創出を図る。 ・手法(対面・オンライン)については、コロナ禍における社会情勢等を見ながら、柔軟に対応していく。	京都市 大学コンソーシアム京都
	⑤ 留学生を対象とした日本語教育の支援	新規	日本語運用力向上講座	大学での日本語学習支援が十分でない、あるいは、交流を通じて日本語力を高めたい留学生を対象に、実戦での日本語運用力の向上を目指す講座を開設。	R2	・日本語運用力向上講座をオンラインで開催した(2回、計18名参加)	・引き続き、日本語運用力向上につながる講座を検討・実施する。 ・手法(対面・オンライン)については、コロナ禍における社会情勢等を見ながら、柔軟に対応していく。	京都市 大学コンソーシアム京都
	⑥ 外国語による学習環境の整備・支援	継続	グローバル科目開設に向けた検討	外国語で履修できる各大学の科目について、単位互換制度による提供に向けた検討を実施。	R1	大学が自キャンパスで開講する英語で行う1科目を単位互換に提供いただく予定であったがコロナの影響により、大学の判断で提供が中止された。	英語で行う科目の受講状況を注視し、想定されるニーズや必要とされる科目開設について検討する。	大学コンソーシアム京都
	⑦ 災害時における留学生等の安全の確保	継続	国際交流会館における防災訓練	大規模災害の発生を想定し、外国籍市民等の防災意識を高め、災害時の通訳体制などの強化を図る訓練を実施。	H21	令和2年9月5日に訓練を実施。当日は、ハザードマップの見方や避難する際の注意事項のレクチャー、また令和2年7月15日から運用を開始した「京都市災害時多言語電話通訳サービス」のテスト通話等も行った。	引き続き、国際交流会館において防災訓練を実施する。	京都市
		新規	災害時多言語電話通訳事業	災害発生時、避難所等が設置された際に、本市の職員や避難所の運営主体等が日本語を話せない外国籍市民等に対応できるよう、専用の電話回線により通訳が可能な体制を整える。	R2	令和2年7月15日に「京都市災害時多言語電話通訳サービス」を開始した。	引き続き、同サービスを継続する。	京都市

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 留学生の受入環境整備	⑦ 災害時における留学生等の安全の確保	継続	京都市防災危機管理情報館	大規模災害時の留学生の安全確保を図るため、京都市総合防災訓練や京都市国際交流会館における防災訓練への留学生を含む外国籍市民の参加を促進するとともに、災害時における京都市国際交流会館を拠点とした翻訳・通訳支援、多言語に対応した防火防災パンフレットの市内各所での配布や防災ポータルサイト「京都市防災危機管理情報館」での防災関連情報の発信等を実施。	-	防災ポータルサイトのリニューアル作業を実施中(令和3年3月末運用開始予定)。新たなサイトでは、自動翻訳機能(英語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国朝鮮語、やさしい日本語)を追加予定。	引き続き、防災ポータルサイトの運営を行うとともに、ハザードマップの多言語化(英語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国朝鮮語)を進める。	京都市
		継続	京都市防災危機管理情報館	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信。	-	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信	京都市防災危機管理情報館において、多言語(英語、中国語、韓国語)で災害等を情報を発信	京都市
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	① 留学生の就職支援・マッチング事業の強化	充実	留学生就職サポート事業 ※「留学生の就職支援・マッチング事業」から事業再構築に伴い名称変更	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。	H29	・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の登録数 留学生374名、企業208社(2月末時点) ・セミナー・交流会開催数(オンライン) 留学生向け3回、企業向け3回、交流会3回 合計参加者数192名(留学生112名、企業80名)	・コーディネーターによるオンラインも活用した丁寧な個別相談に特化した事業に再構築 ・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の運営 ・経済団体や関係団体と連携しながら企業への啓発	京都市
		充実	留学生就職サポート事業 ※「留学生の就職支援・マッチング事業」から事業再構築に伴い名称変更	京都の大学に在籍する留学生と京都企業を対象とした、求人・求職の情報提供・あっせんを行うウェブサイトを開設し、就職・採用の機会を創出(マッチング)するとともに、セミナーや交流会を開催し、地元企業への就職の機運を醸成。 【(再掲)2-(3)-1】	H29	・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の登録数 留学生374名、企業208社(2月末時点) ・セミナー・交流会開催数(オンライン) 留学生向け3回、企業向け3回、交流会3回 合計参加者数192名(留学生112名、企業80名)	・コーディネーターによるオンラインも活用した丁寧な個別相談に特化した事業に再構築 ・留学生の就職支援マッチングサイト「ハタ洛」の運営 ・経済団体や関係団体と連携しながら企業への啓発	京都市
	② 留学生の採用に積極的な地域企業の支援	留学生向け有給インターンシップ事業	京都地域在住留学生の、京都地域の企業(特に中小企業)に対し事業内容の理解を促し、留学生と企業の相互理解による、採用促進及び就職後の定着を促進(実施主体:留学生スタディ京都ネットワーク)。	H28	・コロナ禍の中、企業交流会や研修等をオンラインで実施するなどの対応により、インターンシップ就業を継続実施した。 ・留学生42名がエントリーし、マッチングの結果、6名(5社)がインターンシップを修了した。 ・また過年度修了生へのアンケート・ヒアリングを実施した。(回答者30名)	・引き続き経済団体等と連携した受入企業の開拓・拡充に努めるとともに、OB・OG追跡アンケートによる好事例を受入企業の開拓に活かすほか、受入企業確保のための工夫・取組を検討・実施する。	京都市 大学コンソーシアム京都	

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(3) 留学生の進路・社会進出の支援	② 留学生の採用に積極的な地域企業の支援	充実	留学生就職支援・交流コミュニティ KyoTomorrow Academy事業	文部科学省「住環境・就職支援等留学生の受け入れ環境充実事業」の採択を受け、企業見学、ビジネス日本語研修、就職セミナー、交流会等を通じて、留学生が学生同士や企業、地域等と交流を図りながら、地元企業への就職意識を高め、京都での定着を促進。	H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン企業見学ツアーを1回(参加者10人)、他団体との共催による留学生就職支援イベントを4回(参加者:留学生118人、企業22社)オンラインで実施した。</li> <li>・日本語学習支援として、日本語スタディグループ「BN2」を定期開催するとともに、新たに「日本語力改善セミナー」を2回(参加者18名)をオンラインで開催した。</li> <li>・留学生が興味を持ちそうな文化体験に関する情報発信を積極的に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生スタディ京都ネットワークの「留学生受入環境の整備」に係る取組として、日本語学習支援(スタディグループ等)、企業見学ツアー、他の団体との連携による就職支援、同コミュニティ「Kyotomorrow Academy」を活かした留学生同士、留学生と日本人学生、地域活動団体等との交流機会の創出などを実施する。</li> <li>・手法(対面・オンライン)については、コロナ禍における社会情勢を見ながら、柔軟に対応していく。</li> </ul>	京都市大学コンソーシアム京都
	③ 留学生と企業がつながる機会の充実	充実	外国人留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア	日本での就職を目指す留学生に対し、就職活動に関する情報の提供や採用担当者と直接面談ができる説明会を実施(実施主体:(公財)京都市国際交流協会)。	H19	留学生向けの就職ガイダンス&ジョブフェアをオンラインで実施	留学生向けの就職ガイダンス&ジョブフェアを開催予定	京都市
			留学生向け有給インターンシップ事業	京都地域在住留学生の、京都地域の企業(特に中小企業)に対し事業内容の理解を促し、留学生と企業の相互理解による、採用促進及び就職後の定着を促進(実施主体:留学生スタディ京都ネットワーク)。 【(再掲)2-(3)-2】	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、企業交流会や研修等をオンラインで実施するなどの対応により、インターンシップ就業を継続実施した。</li> <li>・留学生42名がエントリーし、マッチングの結果、6名(5社)がインターンシップを修了した。</li> <li>・また過年度修了生へのアンケート・ヒアリングを実施した。(回答者30名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き経済団体等と連携した受入企業の開拓・拡充に努めるとともに、OB・OG追跡アンケートによる好事例を受入企業の開拓に活かすほか、受入企業確保のための工夫・取組を検討・実施する。</li> </ul>	京都市大学コンソーシアム京都
(4) 日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	① 日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	充実	「英語で京都をプレゼンテーション」	大学コンソーシアム京都加盟大学の学生のうち、海外留学を検討中又は留学を予定している学生や英語で日本や京都の魅力を発信することに興味がある学生を対象に、英語で京都や日本の魅力を発表できるよう研修事業を実施し、英語によるプレゼンテーション能力の向上、日本文化や京都の奥深い魅力を知り、理解する機会を提供。	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍によりオンラインと対面を組み合わせたハイブリッドにより実施。(オンライン5回、対面1回)</li> <li>・文化体験を対面とし、華道・茶道を少人数づつ2グループに分け実施した。</li> <li>・17名が受講し、昨年度に引き続き、希望者(15名)が京都市から「京都PR学生大使」に任命された。</li> <li>・満足度は100.0%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面による交流機会を望む声がかかれたことから、できる限り対面形式での実施に向けて取組を進めていく。</li> <li>・留学が見通せない状況が続く場合等を含め、国内の留学生との交流や京都の魅力発信を行う機会を創出していく。</li> </ul>	大学コンソーシアム京都

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(4) 日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	① 日本人学生の海外留学促進に資する学びの充実	充実	「京(みやこ)グローバル大学」促進事業	留学生誘致をはじめ、交換留学にもつながる市内大学と海外大学との連携など、大学及び学生の国際化に向けた取組を点ではなく面として支援を広げていくことを目的に、留学生増につながる取組を行う大学を支援。	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年7月7日に委員会を開始し、同年7月に7件の採択を決定(池坊短期大学、大谷大学、京都市立芸術大学、京都女子大学、京都精華大学、京都ノートルダム女子大学、佛教大学)。</li> <li>採択した7大学の支援を通して、国際化に係る新たな取組を進める大学を支援。</li> </ul>	引き続き、国際化に資する取組を行う認定7大学を支援。	京都市
			「京都PR学生大使」制度	京都ファンや京都への留学生数の増加を目的として、「京都PR学生大使」を任命し、日本人学生の海外留学への関心を高めるとともに、留学先でのコミュニケーションの不安を軽減することによる海外留学促進と、学生が留学先などで京都の魅力を英語で的確に発信。	H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学コンソーシアム京都主催の「英語で京都をプレゼンテーション講座」を修了した学生を「京都PR学生大使」に任命</li> <li>任命者数 26名</li> <li>国内外において京都の魅力を発信</li> </ul>	引き続き、京都PR学生大使から国内外に向けて京都の魅力を発信する。	京都市
(5) 海外の大学との交流促進	① 海外の大学との交流促進	継続	海外における京都留学フェア開催	京都の学校(大学・日本語学校・専修学校)と連携し、海外で京都に特化した留学フェアや現地の教育機関等を回る京都留学説明会の開催、日本学生支援機構「日本留学フェア(JASSOフェア)への参加による現地情勢や日本(京都)留学意向の把握、継続した京都の知名度アップなどを通じた、幅広い京都留学意欲の喚起を実施。【(再掲)2-(1)】	H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により渡航を伴う海外での誘致活動は見送り、海外エージェントが実施するオンライン日本留学フェアに積極的に出展し、継続した留学先としての京都の知名度アップを図った。(インドネシア、韓国、香港・マカオ・マレーシア・台湾、中国、英国、タイ)</li> </ul>	これまでのプロモーション活動の実績・効果、培ってきた現地関係者との信頼関係等を踏まえ、オンラインや渡航を伴う誘致活動(可能な場合)など、効果が見込まれる手法を用いて、引き続き、海外における京都の知名度アップなどを通じた幅広い京都留学意欲の喚起を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱2 大学・学生の国際化の促進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(5) 海外の大学との交流促進	① 海外の大学との交流促進	継続	語学留学プログラム	留学プログラムが少ない大学で学ぶ学生においても、様々なレベルでの留学機会を確保できるよう、大学コンソーシアム京都とビクトリア大学連携組織との協定に基づくオーストラリアメルボルンでの留学派遣プログラムを実施。(単位互換制度を活用) また、留学機会の更なる創出のため、安近短(安全、近場、短期)な語学留学プログラムを開発。	H22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初対面開催(渡航による留学)、途中からオンライン留学に切り替えて募集を行った。(4校のうち1校選択→2校から1校選択※オンライン留学)</li> <li>・オンライン留学は渡航費・現地滞在費が不要となるものの、学生の多くが渡航を伴う留学を希望する状況から、結果として応募者は0名となった。</li> <li>・安近短な語学留学プログラムについてはコロナ禍によりマレーシアでの現地調査やその他情報収集等について実施を見送った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外への渡航を伴う留学を基本に単位互換制度を活用した豪州メルボルン(ホスト校:龍谷大学)への海外語学研修派遣を引き続き実施する。</li> <li>・同時に、渡航が困難な状況が継続する場合に備え、魅力あるオンライン留学の可能性について情報収集を行う。</li> <li>・マレーシアを念頭に留学初心者も参加しやすい、財団主催の「安近短」な海外語学研修プログラムの開発を可能な範囲で再開する。</li> </ul>	京都市大学コンソーシアム京都
		充実	国際化の事例共有	教職員の国際化支援の一環として、大学における様々な国際化の取組に係る事例共有セミナーを実施。	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う留学生受入れ及び学生の海外派遣における対応について」をテーマに国際系職員のためのオンライン茶話会を実施。(満足度は77.8%, 13名参加)</li> <li>・「令和3年度海外留学に向けた取り組みとオンラインによる国際交流の事例共有(仮題)」をテーマに事例共有オンラインセミナーを実施(予定)(満足度は100%, 9名参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流の状況に関する最新情報や他大学の取組・状況を情報収集したいニーズが高まることから、状況に合わせて様々なテーマを設定した茶話会やセミナーの開催を検討・実施する。</li> <li>・手法(対面・オンライン)については、コロナ禍における社会情勢等を見ながら、柔軟に対応していく。</li> </ul>	大学コンソーシアム京都

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 学生の主体的活動の促進	① 京都学生祭典, 京都国際学生映画祭, 京都学生広報部, 京都から発信する政策研究交流大会等, 学生が主体となって運営している活動の充実に向けた支援 (京都学生祭典) (京都国際学生映画祭) (京都学生広報部) (京都から発信する政策研究交流大会)	充実	京都学生祭典	京都四大祭りを目指す京都学生祭典において、学生の成長と京都のまちの活性化の双方につながるものとなるよう支援。また、低年次生から地域等と関わる機会の拡充による学生の更なる成長を後押し。	H15	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和2年10月11日に初のオンラインにて開催。当日は一部企画を平安神宮前・岡崎プロムナードから無観客でライブ配信するハイブリッド形式で運営し、特設サイトおよびYouTube Liveで多くの視聴回数・閲覧数を獲得。 【最終実績値】 YouTube視聴回数: 27, 163回, 特設サイト閲覧数: 39, 478PV	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、新歓活動が制限され新規実行委員数が例年より大幅に減少していることから、まずは実行委員数の確保に向けて、適宜サポートする。 また、本祭については、オンラインと現地開催のハイブリット形式で開催予定。なお、一部企画において社会情勢が好転すれば、人数制限を設けつつ、観客を入れて実施することを検討している。	大学コンソーシアム京都
			京都国際学生映画祭	上映機会の少ない学生が制作した自主映画を世界各地より集め、上映する機会を学生が創り出すことを通して、未来の映画人を担う人材・才能の発掘を目指すとともに、学生実行委員の成長を促進。	H9	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和3年2月12日～14日に、第23回京都国際学生映画祭を京都文化博物館において開催予定としていたが、初のオンラインでの開催に変更して実施。	引き続き、コロナ禍を念頭に開催形態等の変更も視野に入れながら、京都国際学生映画祭の活動を支援する。 引き続き、実行委員の学びとなる研修プログラム行う。	大学コンソーシアム京都
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	・ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS(Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・よしもと祇園花月との連携企画や、北野天満宮協力の下、受験生を対象にした合格祈願絵馬プロジェクトを実施した。	引き続き、学生目線による大学生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。	京都市大学コンソーシアム京都
			京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。	H17	・第16回大会をオンライン開催(日時:令和2年12月20日。参加者数:433名) ・奨励賞受賞者による行政に対する報告会を開催(日時:令和3年2月4日。参加自治体:京都市、京都市、東近江市)	引き続き、意義ある発表の場となるよう改善を図るとともに、研究成果が社会に還元される仕組みづくりに取り組む。	大学コンソーシアム京都

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 学生の主体的活動の促進	② 学生Place+(ふらす)の更なる活用促進	充実	学生Place+(輝く学生応援プロジェクト)	キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対して、活動場所の提供や専門コーディネーターによる助言・指導等を通じた支援を実施	H21	キャンパスプラザ京都1階の学生Place+を拠点に、学生が大学の枠を超えて行う、京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。(学生Place+来場者数(12月末現在):10,604名)	・新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、学生が大学の枠を超えて京都のまちの活性化につながる活動に対し、総合的な支援を実施する。	京都市
	③ むすぶネットの活性化	充実	むすぶネット(輝く学生応援プロジェクト)	発表の場を求めている音楽や踊りなどの学生団体・サークルと、地域の夏祭りなどに学生の参加を求める自治会等のマッチングや、地域の課題解決に大学や学生の協力を求めている地域と大学で得たことを実践する場を求めている学生を繋げることにより、さらなるまちの活性化、京都のまちづくりを推進。	H21	・ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを実施する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により4月から10月末までマッチング機能を停止、11月から再開。マッチング数0件(12月末時点)。 ・登録団体等のコロナ対策を可視化できるようシステムの改修を行った。	新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを促進する。	京都市
	④ ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	新規	ふるさと納税寄付金における学生応援メニューの開設	京都市のふるさと納税に、「京都学生祭典」の応援に関する寄付メニューを開設し、「大学のまち京都・学生のまち京都」のPRや、関連施策を充実させるに当たっての財源確保を促進。	R1	京都市のふるさと納税制度における「京都学生祭典応援メニュー」において、寄付を募るとともに、全国に向けて京都学生祭典をPRした。(482件25,491千円(令和2年12月末現在))	引き続き、同メニューへの寄附の促進を図り、京都の学生を応援しようというファンを広く全国から獲得する。	京都市
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	① 学生と地域の連携強化	充実	大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。	H16	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、令和2年度は事業中止	コロナ禍における対策を講じた上で活動を継続できるよう、引き続き、支援していく。	京都市 大学コンソーシアム京都
			区民提案・共汗型まちづくり支援事業	柔軟で活気に満ちた若い力を地域の課題解決や地域活性化にいかすとともに、地域社会との関わりの中で得られる学びの機会を創出すること等を目的として、「区民提案型支援事業」に学生等への支援枠を設け、「共汗型事業」では学生をはじめとした若者と連携した事業を展開。	H24	区民提案型支援事業により、学生と地域が連携した取組に対して支援を行った。	「区民提案型支援事業」において、引き続き、学生と地域の連携強化の取組を推進する。	京都市
			京都から発信する政策研究交流大会	都市政策を学ぶ学生・院生が中心となり、日頃の研究や学習の成果発表を通じて交流を深めるとともに、地域社会に対して政策提案、情報発信の場となることを目的に政策研究交流大会を開催。【(再掲)3-(1)】	H17	・第16回大会をオンライン開催(日時:令和2年12月20日。参加者数:433名) ・奨励賞受賞者による行政に対する報告会を開催(日時:令和3年2月4日。参加自治体:京都市、京都市、東近江市)	引き続き、意義ある発表の場となるよう改善を図るとともに、研究成果が社会に還元される仕組みづくりにも取り組む。	大学コンソーシアム京都

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	② 地域活動への学生の参画促進	継続	消防団入団促進事業	<p>若者の消防団への入団促進を図ることで、消防団の活性化、充実強化を図るため、以下取組を実施。</p> <p>1 消防団員の入団資格の拡充 「京都市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例」を改正し、市外に居住する学生も市内に通学していれば入団できるよう入団資格を拡充。</p> <p>2 消防団防災ハイスchoolの実施 消防団員が地元の高等学校に出向き、放水活動やAEDの取扱いなど消防団活動の体験を中心とした防災教育を行う「消防団ハイスchool」を開始。</p> <p>3 学生認証制度の創設 大学等に通学しながら消防団活動に取り組み、地域社会へ貢献した大学生等の功績を認証する学生消防団活動認証制度を開始。</p> <p>4 消防団充実強化実行チームによる入団促進 消防団全体の活性化を図るため若手消防団員を中心として結成された消防団充実強化実行チームのメンバーが大学やターミナル駅等に出向いて入団勧奨活動を実施。</p>	H27	<p>新型コロナにより、消防団活動が制限され、消防団をPRする機会が減少しているものの、学生をはじめとする、若者の消防団への継続的な加入により、4,500名を維持している。令和3年1月現在で、4,534名となった。(定員4,970名)</p> <p>1 平成27年度70名だった学生団員数は、令和3年1月現在で284名と増加しており、引き続き、広報媒体等を活用して、入団促進を図る。</p> <p>2 消防団防災ハイスchoolの実施状況は、新型コロナ感染拡大防止や教育カリキュラムの遅れ等の理由により、実施を見合わせる高校が多数あったため、令和2年度の実績は、4高校 1,617名 指導団員20名となった。</p> <p>3 令和2年度中、学生認証制度の利用学生団員は29名で、平成27年度から延べ117名を認証した。</p> <p>4 地域行事や大学生が集まるイベント(学生祭典など)が中止やオンライン開催になったため、大学生を対象とした入団勧奨は実施できなかった。 ※令和2年度は市役所等の市職員を対象とした入団勧奨を実施した。</p> <p>新型コロナの状況を確認しながら、学生などの若者の消防団への加入促進を図り、消防団の活性化や充実強化につなげる。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、オンラインやSNSを活用した取組の実施について検討する。</p> <p>1 学生の入団促進 大学等に通学する学生に対し、広報媒体等を活用して、入団促進を図る。</p> <p>2 消防団防災ハイスchoolの実施 新型コロナの感染状況により、学校の授業や部活動部員等に実施できるよう折衝する。</p> <p>3 学生認証制度の周知、利用促進 広報媒体やホームページ等により同制度を周知し、学生の入団促進を図る。また、現役学生団員には制度利用の促進を図る。</p> <p>4 消防団充実強化実行チームによる入団促進 消防団充実強化実行チームが運営するFacebookの更なる活用による入団勧奨及び大学生などの若者が集まるイベントやオンラインでの開催イベントで入団勧奨活動を実施できるよう折衝する。</p>	京都市



柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	② 地域活動への学生の参画促進	継続	自治会等への加入促進(きょうと地域力アップ貢献事業者等表彰)	自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進することを目的に、自治会・町内会等の地域団体が主体となって取り組む地域活動に関して、これと連携・協力し、地域力の向上に貢献している事業者、NPO法人、大学、マンション等を顕彰し、自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化への取組を一層推進。	H25	隔年開催であり、今回は令和3年度に実施予定	京都市自治記念式典の「未来の京都まちづくり表彰」に統合される。	京都市
			自治会等への加入促進(大学・専修学校新入生向けチラシの配布)	大学・専修学校への入学生に対し、自治会・町内会への加入促進、地域活動への参加をはじめ、選挙権年齢引下げに伴う住民票の異動等と呼び掛けるチラシを配布。	H28	令和2年4月頃に、市内大学・専修学校新入生に向けた啓発チラシを配布した。	令和3年4月頃に、市内大学・専修学校新入生に向けた啓発チラシを配布する予定。	京都市
			むすぶネット(輝く学生応援プロジェクト)	発表の場を求めている音楽や踊りなどの学生団体・サークルと、地域の夏祭りなどに学生の参加を求める自治会等のマッチングや、地域の課題解決に大学や学生の協力を求めている地域と大学で得たことを実践する場を求めている学生を繋げることで、さらなるまちの活性化、京都のまちづくりを推進。 【(再掲)3-(1)】	H21	・ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを実施する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により4月から10月末までマッチング機能を停止、11月から再開。マッチング数0件(12月末時点)。 ・登録団体等のコロナ対策を可視化できるようシステムの改修を行った。	新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、ウェブサイトを活用し、学生の活動と地域のニーズとのマッチングを促進する。	京都市
			学生ボランティアチャレンジ(輝く学生応援プロジェクト)	社会貢献活動等に関心のある学生とボランティア活動とをマッチングすることにより、学生が社会的な課題や社会貢献活動に触れる機会を創出。	H26	学生とボランティア活動とのマッチングを行い、地域活動への学生の参画を促進する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により前期は中止。後期は、コロナ禍でも実施できるようプログラムを変更して実施(後期参加者数:21名)。	新型コロナウイルス感染症の感染状況等を注視しながら、引き続き、学生とボランティア活動とのマッチングを行い、地域活動への学生の参画を促進する。	京都市
			学生防犯ボランティアへの支援	「互いに助け合う、犯罪や事故が少ないまち」を目指し、大学生への支援と連携を進めるため、学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」への支援などを実施。 ※学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」自主防犯活動への参加を希望する大学生を対象に、京都府警察が設けた学生ボランティア登録制度	H23	学生防犯ボランティア「ロックモンキーズ」による、防犯パトロールなどの学生防犯活動に対して補助金を交付しており、これを活用した防犯教室等各種の活動を実施中。	引き続き、学生が主体となった防犯活動への支援を行う。	京都市

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2)	③ 学生が地域のまちづくりと関わる機会の充実	新規	大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」,各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し,新たな連携や取組の深化を促進。	R1	大学・学生と地域連携の事例等の掲載を充実させるとともに,サイト全体をより見やすくするため,案件の整理等を行った。	引き続き,地域連携に係る情報の配信を行うとともに,効果的なサイトのあり方について検討を行う。	大学コンソーシアム京都
(3)	① ② 大学卒業後の多様な選択肢を描ける学びの機会の充実	充実	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく,大学における学びの一環として位置づけ,実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。	H10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響により「ビジネス・パブリックコース」「長期プロジェクトコース」とも中止した。</li> <li>・次年度も対面での活動が制限されることを想定し,オンライン授業の準備や種々手続きのWeb化を進めた。</li> <li>・低年次生向けの広報物を作成し案内した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビジネス・パブリックコース」では実習の事前と事後に実施する講義をオンラインにて実施する。「長期プロジェクトコース」では対面での実施を追求しつつも状況によってはオンラインと併用して実施する。</li> <li>・出願,面接,レポート等の提出はWebにて行う。</li> <li>・低年次生向けの広報を継続して実施する。</li> </ul>	大学コンソーシアム京都
		充実	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	学生と京都の中小企業との交流会の開催等,相互理解を深める取組を実施。	H28	学生と京都の中小企業との交流会等を開催(回数:42回,参加者:2,017名,参加企業:114社)	引き続き,学生と企業の相互理解を深めるため,事業に取り組む。なお,新型コロナウイルスの感染拡大防止策として,オンラインを中心に実施する。	京都市
			多様な生き方・学びを考える機会の創出	学生や企業の要望に応じて,低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし,早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに,職業観の醸成を促進。	H28	インターンシップ,見学会等の実施(回数:49回,参加者52名,参加企業30社)	引き続き,学生の京都の中小企業に対する理解を深めるとともに,職業観の醸成を促進するため,事業に取り組む。なお,新型コロナウイルスの感染拡大防止策として,オンラインを中心に実施する。	京都市
西陣を中心とした地域の活性化	平成31年1月に策定した「西陣を中心とした地域活性化ビジョン～温故創新・西陣～」に基づき,西陣で継承されてきた多彩な魅力・資源をつなぎ,そこに新たな担い手や知恵を融合させることで,未来に向けた創造を生み出す取組の推進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」に基づく各種取組を推進</li> <li>・学生を対象とした事業アイデアコンペ「コネクリ」を開催し,学生が地域でヒアリング等しながら,事業アイデアを練り上げ,オンラインで発表会を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」に基づく各種取組を推進</li> <li>・学生が伝統工芸に出会う機会の創出等について,実施主体や方法等を検討</li> </ul>	京都市			

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(3) 大学卒業後の多様な選択肢を描ける学びの機会の充実	② 多様な生き方・学びを考える機会の創出	充実	児童館等における大学生職業体験事業	学生を児童館等に派遣し、施設職員と同様の業務を行うことを想定した、職務実践型の職業体験事業を実施することにより、学生の学びの充実や、学生と関わる子どもたちの育ち・学びを支援。	R1	協定を締結した市内1大学から、合計8名の学生が、それぞれ約5日の職業体験に参加。	引き続き、協定を締結した市内2大学を中心に、参加学生を募集する。	京都市
	③ 高大社連携キャリア教育企画の充実	充実	高大社連携キャリア教育企画	高校生と大学生のキャリア発達を促すことを目的として、テーマを設けて高校生・大学生・社会人といった世代間や学校間を越えて対話し交流する「高大社フューチャーセッション」を実施。	H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高大社連携フューチャーセッション(オンライン開催 11/15)</li> <li>【参加者数: 高校生16名, 大学生21名(内訳: 一般参加者 高校生4名, 大学生15名 実行委員参加者 高校生12名, 大学生6名)</li> <li>】</li> <li>振り返り会(オンライン開催 1/30)</li> </ul>	引き続き高大社連携フューチャーセッションを開催する。なお、実施にあたっては、より多様な高校や大学からの参加者増のために、各校の行事等の情報収集を踏まえて、広報期間や実施時期等に配慮する。また、令和2年度の参加状況を踏まえ、過年度参加実績のある高校を訪問することで、周知拡大を図る。また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸に、可能であれば一部対面での開催も考える。	大学コンソーシアム京都
(4) 学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	① 学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充	充実	キャンパス文化パートナーズ制度	市域の大学と連携し、学生が京都の多彩な文化に触れ、体験する機会を提供するとともに、そのための経済的な負担を軽減。	H22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生向けの文化施設等の優待(54施設, 1事業)を実施した。</li> <li>・制度を利用する学生に対して、文化情報をメール配信(12件(12月末時点))した。</li> <li>・文化芸術企画課でのシステム運用は、令和2年度末で終了し(R3予算0)、令和3年度からは学生向けアプリの中で運用を図る。</li> </ul>	学生向けアプリとの連携により、制度利用者の増加や利便性向上等を図るとともに、優待文化施設数の増加に取り組む。	京都市
			学生向けアプリ (「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の開発・活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を、学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し、「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」、「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み、学生の主体的活動を促進し、京都のまちの活性化を推進。 【(再掲)1-(2)】	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年3月26日に配信を開始。多くの学生にアプリをダウンロードし活用いただけるよう広報に力をいれた。</li> <li>(令和3年2月末時点DL数: 8,876件)</li> <li>・アプリの運用を行い、本アプリを利用している学生を対象としたアンケート結果を踏まえ、必要に応じて仕様の改善を図った。</li> </ul>	より多くの学生にアプリを利用してもらうため、引き続き、PRや仕様の充実を図るとともに、協賛企業等の獲得により運営基盤の強化を図る。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(4) 学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	① 学生が京都の文化や魅力に触れる機会の拡充	充実	京都・和の文化体験の日	日本文化の真髄である京都の文化芸術を次の世代にしっかりと伝えていくため、学生をはじめとする若者が「和の文化」に触れ、体験し、伝統産業に親しむ機会を提供。	H25	これまでに制作した5種類の入門冊子を英訳した情報冊子の発行、無料配布。令和3年2月発行予定。	令和2年度をもって事業終了。	京都市
			単位互換科目の充実	京都世界遺産PBLに引き続き、京都ミュージアムPBLを開設。 【(再掲)1-(1)】	H6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4施設による4科目を開講し、全科目合計で53名が受講した。</li> <li>・「京都世界遺産PBL科目」は6大学・6所有者による7科目を開講したが1科目がコロナの影響により閉講となった。全科目合計で85名が受講した。</li> <li>・いずれも授業はオンラインと対面での活動を併用して実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「京都世界遺産PBL科目」は5大学・5所有者による6科目を開講する。</li> <li>・「京都ミュージアムPBL科目」は4大学・4施設による4科目を開講する。</li> <li>・いずれもオンラインと対面での活動を併用して実施する。</li> <li>・受講者確保に向け積極的に広報活動を行うとともに、着実に事業を推進し、継続的、安定的に運営すべく大学及び文化施設、相互の積極的なサポートを実施する。</li> </ul>	大学コンソーシアム京都
			京都国際舞台芸術祭	「京都文化の〈現在〉を世界に発信する、新たな観光資源としての国際フェスティバルを目指す」ことを基本理念とし、次世代の人材育成や本市の重要事業との連携など、京都の未来を見据えて展開し、国内外の先駆的な舞台芸術を紹介する世界的な芸術祭を開催。	H22	開催時期について、当初予定の10月から延期し、令和3年2月6日～3月28日に実施予定。上演プログラムについては、上映会等に変更して実施しているものがある。	令和3年秋期(10月)に実施予定。	京都市
(4) 学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	② 留学生が京都の文化芸術に親しむ機会の創出	継続	受入環境整備事業(留学生優待プログラム)	市内文化施設等への入場優待やイベントへの無料招待を実施。	H21	市内文化施設等への入場優待が受けられる「留学生おこしやすPASS」の配布やイベントへの無料招待等を実施した。 (おこしやすPASS利用者数:留学生797名、日本人学生29名、イベント無料招待:参加者数266名(いずれも12月末時点))	市内文化施設等への入場優待が受けられる「留学生おこしやすPASS」やイベントへの無料招待等を実施	京都市
	③ 若手アーティスト・クリエイターの育成	充実	京都市芸術文化特別奨励制度	芸術文化の若い担い手等を育成することにより、新たな芸術文化の創造を促進し、京都の芸術文化を振興することを目的として、候補者を公募、審査のうえ、1個人又は1グループに対して300万円の奨励金を交付。	H12	令和2年度の奨励者に対し、奨励金を支出。令和3年度の奨励者募集活動は見送りとした。	令和4年度の奨励者募集活動は実施予定。	京都市

柱3 大学の枠を超えた学生の活動の推進

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(4) 学生が京都の文化や魅力と触れ合う環境づくり	③ 若手アーティスト・クリエイターの育成	充実	京都学生アートオークション	京都の芸術系大学で学ぶ学生のキャリア支援を目的としたオークションを開催(京都学生アートオークション実行委員会主催)。	H29	令和2年12月13日に京都芸術センターにて、オンラインでも参加可能な形で開催した。	外部資金の獲得により、開催予定。	京都市
			京都文学賞	京都を題材とする文学作品を募集、表彰することにより、京都における文学の更なる振興とともに、「文化都市・京都」の発信や、京都の歴史と幅広い魅力の再認識、都市格の向上を促進。	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年5月1日から9月14日まで小説を募集(一般、中高生、海外部門の合計応募作品数は、331作品)。</li> <li>・書評家、出版社編集者などの専門家による一次選考を実施し、11月10日に一次選考結果を発表(一次選考通過作品は36作品)。</li> <li>・読者選考委員による二次選考を実施し、令和3年1月8日に二次選考結果を発表(二次選考通過作品は11作品)。</li> <li>・3月以降に受賞作を発表、表彰式・交流会を実施予定。</li> </ul>	引き続き、文学の更なる振興、新人作家の発掘・育成を図るとともに、読書好きの若者をはぐくむため、本事業を実施する。	京都市

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体		
(1)	京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	①	地域企業と連携した担い手育成	継続	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。 【(再掲)3-(3)】	H10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響により「ビジネス・パブリックコース」、「長期プロジェクトコース」ともに中止した。</li> <li>・次年度も対面での活動が制限されることを想定し、オンライン授業の準備や種々手続きのWeb化を進めた。</li> <li>・低年次生向けの広報物を作成し案内した。</li> <li>・実習でのオンライン導入の支援など、受入先と連携した取組を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビジネス・パブリックコース」では実習の事前と事後に実施する講義をオンラインにて実施する。「長期プロジェクトコース」では対面での実施を追求しつつも状況によってはオンラインと併用して実施する。</li> <li>・出願、面接、レポート等の提出はWebにて行う。</li> <li>・低年次生向けの広報を継続して実施する。</li> <li>・既存の受入先との連携を強め、実習でのオンライン導入の支援などを通じて実習内容の魅力を引き出すよう努める。</li> </ul>	大学コンソーシアム京都
(1)	京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	①	地域企業と連携した担い手育成	継続	京都企業と連携した次代の京都を担う人財の育成事業	大学や国籍の垣根を超えた多様な学生・留学生がチームで、京都企業と連携して課題に取り組むPBLプログラムを実施。	H26	留学生を含む学生のチームが、京都企業と連携したPBLにより、企業の提示する課題の解決や学生から企業への提案などにオンラインも活用しながら取り組んだ。 (プロジェクト数:11, 参加者:12 大学・69名(うち留学生12名))	引き続き、オンラインも活用しながら留学生を含む学生のチームと京都企業が連携したPBLを実施する。	京都市
		②	地域企業の魅力発信の強化	充実	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	<p>京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。</p> <p>学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。【(再掲)3-(3)】</p>	<p>H21</p> <p>ウェブサイト「京のまち企業訪問」の掲載企業(掲載企業数:3,768社)</p>	引き続き、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知するため、事業に取り組む。	京都市	
						<p>H28</p> <p>インターンシップ、見学会等の実施(回数:49回, 参加者52名, 参加企業30社)</p>	引き続き、学生の京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進するため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、オンラインを中心に実施する。	京都市		

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	② 地域企業の魅力発信の強化	充実	インターンシップ・プログラム	就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムを実施。【(再掲)3-(3)】	H10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響により「ビジネス・パブリックコース」、「長期プロジェクトコース」ともに中止した。</li> <li>・次年度も対面での活動が制限されることを想定し、オンライン授業の準備や種々手続きのWeb化を進めた。</li> <li>・低年次生向けの広報物を作成し案内した。</li> <li>・実習でのオンライン導入の支援など、受入先と連携した取組を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビジネス・パブリックコース」では実習の事前と事後に実施する講義をオンラインにて実施する。「長期プロジェクトコース」では対面での実施を追求しつつも状況によってはオンラインと併用して実施する。</li> <li>・出願、面接、レポート等の提出はWebにて行う。</li> <li>・低年次生向けの広報を継続して実施する。</li> <li>・既存の受入先との連携を強め、実習でのオンライン導入の支援などを通じて実習内容の魅力を引き出すよう努める。</li> </ul>	大学コンソーシアム京都
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」において、京都の地域企業を取材した記事を発信。	H27	京都の地域企業を取材し、ウェブサイト「コトカレ」やSNSで発信した。	引き続き、京都の地域企業の情報を発信する。	京都市
	③ 地域企業と学生の出会いの場づくり	充実	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	大学への出張セミナーの実施や、就職活動に関する様々な相談への対応により、職業観を醸成し、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手を育成するとともに、就職後のフォローアップを実施。	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張セミナー等の実施(回数:19回,参加者:544人)</li> <li>・個別カウンセリングの実施(人数:延べ891人)</li> </ul>	引き続き、学生の職業観の醸成や卒業後の多様な選択肢を描ける担い手の育成、就職後のフォローアップのため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、オンラインを中心に実施する。	京都市
				学生や企業の要望に応じて、低年次の学生も対象としたインターンシップや企業見学会等の開催をサポートし、早い段階から京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進。【(再掲)3-(3)】	H28	インターンシップ、見学会等の実施(回数:49回,参加者52名,参加企業30社)	引き続き、京都の中小企業に対する理解を深めるとともに、職業観の醸成を促進するため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、オンラインを中心に実施する。	京都市
				学生と京都の中小企業との交流会や、キャリア授業交流会の開催等、相互理解を深める取組を実施。【(再掲)3-(3)】	H28	学生と京都の中小企業との交流会等を開催(回数:42回,参加者:2,017名,参加企業:114社)	引き続き、学生と企業の相互理解を深めるため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、オンラインを中心に実施する。	京都市
				京都企業・就業情報データベースを作成し、ウェブサイト「京のまち企業訪問」を活用して情報発信を行うことで、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知。【(再掲)4-(1)】	H28	ウェブサイト「京のまち企業訪問」の掲載企業(掲載企業数:3,768社)	引き続き、学生をはじめとする求職者等に京都の中小企業の魅力を広く周知するため、事業に取り組む。	京都市

柱4 学生の進路・社会進出の支援

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 京都の地域企業と連携した担い手育成と地域企業の魅力発信	③ 地域企業と学生の出会いの場づくり	充実	グローバル拠点推進事業	スタートアップと学生・留学生との交流の場を創出し、スタートアップの人財確保を支援する。	R3	—	大学生・留学生と京都市内スタートアップ企業との交流会の開催(年2回程度)	京都市
	④ 学生のベンチャーマインド・ソーシャルビジネスマインドの育成	充実	ものづくりベンチャー戦略拠点事業	次代の京都経済をリードするベンチャー・スタートアップ企業の発掘・育成のため、起業・ものづくり・イノベーション等をテーマにKyoto Makers Garageで交流イベントを開催。	H29	新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の同事業は中止。	新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、事業開催を検討する。	京都市
			京都市ソーシャル・イノベーション・クラスター創出支援事業	ビジネスを通して社会的課題の解決に取り組むソーシャルビジネス事業者の集積(ソーシャル・イノベーション・クラスター)を図るため、ソーシャルビジネスの認定制度の運用及び各種支援による社会的企業の育成・誘致を実施。	H27	・社会的課題を社会との相互作用によって解決する、持続可能な仕組みをデザインする科目「ソーシャルインタラクションデザイン」を京都工芸繊維大学大学院と協力して実施した ・各大学において、京都市のソーシャル・イノベーションの取組について講義を行った。 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全てオンラインで実施)	引き続き、各大学において、京都市のソーシャル・イノベーションの取組について講義を実施する。	京都市
	⑤ 学生の就職活動の支援	継続	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	大学への出張セミナーの実施や、就職活動に関する様々な相談への対応により、職業観を醸成し、卒業後の多様な選択肢を描ける担い手を育成するとともに、就職後のフォローアップを実施。【(再掲)4-1(1)】	H28	・出張セミナー等の実施(回数:19回,参加者:544人) ・個別カウンセリングの実施(人数:延べ891人)	引き続き、学生の職業観の醸成や卒業後の多様な選択肢を描ける担い手の育成、就職後のフォローアップのため、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、オンラインを中心に実施する。	京都市
	(2) 「働き方改革」の推進と学生を取り巻く就労環境の向上	① 働き方改革実践企業等の学生への周知	新規	京の企業働き方改革総実践プロジェクト	地域企業が働き方改革の取組状況を自己診断し、その結果を企業の魅力として、WEBサイト「京のまち企業訪問」上で発信する「京の企業『働き方改革』自己診断制度」を実施。	H30	企業の働き方改革の取組状況について、WEBサイト「京のまち企業訪問」を活用し発信した。(取組状況公開企業数:3,026社)	引き続き、企業の魅力を発信するため、WEBサイト「京のまち企業訪問」において、働き方改革に取り組む地域企業の情報を発信する。なお、次年度以降は、京都中小企業担い手確保・定着支援事業の一環として、実施する。
② 学生を取り巻く就労環境の向上		充実	京都中小企業担い手確保・定着支援事業	ワークショップ形式で労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発等を目的としたセミナーを開催。また、ブラックバイトの根絶に向けて、「京都市わかもの就職支援センター」に相談窓口を設置し、アルバイトに関するあらゆるトラブルについて対応。【(再掲)1-2(2)】	H28	・「働くルールを知るセミナー」の開催(回数:1回,参加者:93名) ・「ブラックバイト相談窓口」での対応(相談件数:3件)	引き続き、労働法制を学ぶなど、学生や企業への周知啓発や、ブラックバイトの根絶に向け、事業に取り組む。なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、オンラインを中心に実施する。	京都市



柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体	
(1) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	① リカレント教育(職業人・社会人向けの教育プログラム)等の実施・充実	新規	リカレント教育の推進支援、実施に向けた検討	各大学等が実施するプログラムを共有したうえで、リカレント教育の推進に向けた支援策を検討・実施。	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各大学が実施するリカレント教育の支援策及び大学コンソーシアム京都が実施するリカレント教育等について「リカレント教育企画検討委員会」において検討した。</li> <li>各大学のリカレント教育の取り組みを広く発信していくことを目的として、令和3年度からのリレー講座の実施を検討・企画した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規に「大学リカレント教育リレー講座」として6大学6講座を実施する。</li> <li>引き続き、各大学が実施するリカレント教育の支援策及び大学コンソーシアム京都が実施するリカレント教育等について検討する。</li> </ul>	大学コンソーシアム京都	
	② 京(みやこ)カレッジにおける教養講座の充実	充実	生涯学習事業「京カレッジ」の充実	一般市民を対象とした生涯学習事業である「京カレッジ」において、新・文化庁との連携や「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の時代のトピックスを踏まえた内容を反映。	H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>29大学2機関(前年度31大学2機関)から224科目(同257科目)を提供し、延べ1,095名(同1,570名)の出願があった。</li> <li>京都学講座を含む市民教養講座としてキャンパスプラザで開講した7科目(同10科目)の出願は624名(同904名)であった。大学リレー講座では10大学・10講座をリレー形式で行い、平均100名程の受講となっている。感染防止策としていずれも教室定員の2分の1を受講定員として設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度「京カレッジ」京都力養成コースにおいて、京都と疫病に関連した講座を開講する。</li> <li>対面での講座実施となることから、受講定員は引き続き教室定員の2分の1として実施する。</li> </ul>	京都市大学コンソーシアム京都	
	③ 公開講座や大学施設の情報発信	充実	「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリKYO-DENTの活用	「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリKYO-DENTの活用	「大学リレー講座」による各大学の生涯学習事業の情報発信	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般市民を対象とした生涯学習事業「京カレッジ」のひとつとして各大学の特色ある講座をリレー形式で実施する。あわせて講座実施校のキャンパスで実施する講座やイベント等を紹介し大学の魅力をPR。</li> </ul>	「京カレッジ」において、各大学(10大学)の特色ある講座をリレー形式で実施した。	引き続き各大学と連携してリレー形式の講座を実施する。
					R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症に係る支援策の周知や学生への啓発の実施</li> <li>京都学生祭典実行委員会や京都学生広報部との連携のもと、学生生活の充実等に係る情報を発信</li> <li>京都市や大学コンソーシアム京都、経済団体等における学生向けの各種事業や取組の周知</li> <li>学生団体の取組やメンバーについて周知</li> </ul>	引き続き、各大学や学生団体、企業等と連携しながら学生向けの情報を広く発信していく。	京都市	

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	① 産学公の連携強化	充実	京都産学公連携機構	京都における産学公のあらゆる機関が相互に情報を共有しながら連携と協働を進めるための基盤として設立された「京都産学公連携機構」に参画。同機構が実施する産学公連携事業を支援。	H15	令和元年度末をもって、産学公連携機構が廃止された。	—	京都市
			京都「大学の知恵」活用認定制度	京都の大学の研究成果を活用した商品や取組を認定する共通ロゴマークを使用することにより、大学の社会貢献が見える化するとともに、大学の研究成果の社会還元を推進し、産学連携や地域連携を通じた地域経済の活性化及び活力ある地域づくりを推進。	H29	京都「大学の知恵」活用認定制度を推進した。 (実績) R1年度29件、R2年度集計中	事業開始当初の予定通り、令和2年度末をもって事業を終了する予定である。	京都市
	② 大学の技術シーズの事業化	継続	京都市成長産業創造センターでの取組の推進	大学・研究機関、企業等の産学公が連携し、最先端の大学の技術シーズを着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進して、「グリーン・イノベーション」(環境エネルギー分野革新)と「ライフ・イノベーション」(医療・介護分野革新)を実現し、付加価値の高い高機能性化学品を生み出すとともに、その成果を地元の中小企業に橋渡しすることにより、京都市域における産業競争力の確保と新規事業を創出。また、人材育成や産学公の交流の場を提供し、幅広い情報交流の促進と新たな連携を創出。	H25	大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクトを推進したほか、センター創立7周年フォーラム(オンライン)を開催した。	引き続き、大学の最先端の研究成果を着実に事業化につなげる研究プロジェクト等を推進する。	京都市
③ 大学との共同研究の推進による新事業創出支援	継続	京都市ライフイノベーション創出支援センター	大学及び中小・ベンチャー企業等の技術シーズ、医療機関等のニーズの発掘に常時取り組むとともに、有望な研究テーマについては大学・企業等との連携の下、事業化に向けて、産学連携のコーディネート活動を行うほか、国等の研究開発プロジェクト等に位置付けられるよう伴走支援を実施。 また、大学発のシーズの事業化を進めるため、大学発ベンチャーの設立支援等も含め、発掘から事業化が見込める段階までの伴走支援を実施。	H22	革新的な医療技術に関する研究開発に対して助成(採択件数:19件)を行ったほか、ライフサイエンス分野における大学発ベンチャーの起業促進に向けて、ビジネスモデル構築等を実践的に支援する「KYOTO発起業家育成プログラム」(採択件数:3件)等を実施した。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、イベント等をオンラインで開催あるいは開催を中止した。	引き続き、「京都発革新的医療技術研究開発助成事業」や「KYOTO発起業家育成プログラム」に取り組む。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、講座等のオンライン開催を予定している。	京都市	

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2) 産学公連携によるイノベーションの創出及び京都経済の活性化	③ 大学との共同研究の推進による新事業創出支援	継続	地域産学官共同研究拠点事業	平成21年12月に(独)科学技術振興機構(JST)の採択を受けた地域産学官共同研究拠点整備事業により、高度研究機器の配備を受け、先端光加工プロジェクト及びバイオ計測プロジェクトを推進。機器を活用し、共同研究の推進と中小企業への技術移転、高度技術者の育成等を促進。	H23	高度研究機器を活用した大学、企業等との共同プロジェクトを推進したほか、先端研究機器に精通した高度技術者等の育成(人材育成セミナー等の実施)等に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、拠点の一時閉鎖や、イベントの中止などを行った。	バイオ計測プロジェクトについては、引き続き、高度研究機器を活用した大学、企業等との共同プロジェクトを推進や、先端研究機器に精通した高度技術者等の育成に取り組む。先端光加工プロジェクトについては、京都大学大学院工学研究科が進めている研究機器のオープン利用の取組に発展的に引き継ぐ。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた取組として、技術者育成講座等のオンライン開催を予定している。	京都市
		継続	次世代産業×大学発ベンチャー 社会課題解決のための技術開発プロジェクト	社会課題の解決につながる研究を行う研究者に対し、研究開発への助成、実証実験のフィールドの提供、技術開発へのフィードバック等の支援を行い、製品・サービス等の開発を促進。さらに、こうした研究開発の成果を金融機関、ベンチャーキャピタル等の投資家に対して発表する場を提供し、大学発ベンチャーの起業を後押しし、次世代産業の振興を促進。	R2	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた大学の活動制限により、令和2年度は執行を留保。	実施することとし、大学発ベンチャーの起業を後押しするとともに、次世代産業の振興を図る。	京都市
	④ コンテンツ産業の振興と担い手育成	充実	MANGAナショナルセンター(仮称)誘致推進事業	日本初のマンガ文化の総合拠点であり、MANGAナショナル・センター(仮称)のハブ(軸)機能としての位置付けを目指す京都国際マンガミュージアムの機能充実を図るとともに、作品コンテストや企業等とのマッチングを通じ、コンテンツ産業を支える優秀なクリエイターの育成を推進。	H30	・京都クリエイティブ企業キャリアフォーラムの開催(オンライン、9月19日、20日) ・京都国際マンガミュージアムPR事業	・京都クリエイティブ企業キャリアフォーラムの開催 ・京都国際マンガミュージアムPR事業	京都市
(3) 大学をいかした文化芸術環境の向上	① 新・文化庁との連携強化	新規	新・文化庁との連携	文化庁地域文化創生本部と締結した連携協定に基づき、新文化庁との連携を強化。	H30	昨年度に引き続き、文化庁地域文化創生本部をインターンシップ事業の受入先に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため実施を見合わせた。	文化庁地域文化創生本部をインターンシップ事業の受入先とするとともに、引き続き、他の連携強化策について検討する。	大学コンソーシアム京都

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(3) 大学をいかした文化芸術環境の向上	② 大学の知をいかした文化力の向上	充実	生涯学習事業「京カレッジ」の充実	一般市民を対象とした生涯学習事業である「京カレッジ」において、新・文化庁との連携や「東京2020オリンピック・パラリンピック」等の時代のトピックスを踏まえた内容を反映。 【(再掲)5-(1)】	H19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・29大学2機関(前年度31大学2機関)から224科目(同257科目)を提供し、延べ1,095名(同1,570名)の出願があった。</li> <li>・京都学講座を含む市民教養講座としてキャンパスプラザで開講した7科目(同10科目)の出願は624名(同904名)であった。大学リレー講座では10大学-10講座をリレー形式で行い、平均100名程度の受講となっている。感染防止策としていずれも教室定員の2分の1を受講定員として設定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度「京カレッジ」京都力養成コースにおいて、京都と疫病に関連した講座を開講する。</li> <li>・対面での講座実施となることから、受講定員は引き続き教室定員の2分の1として実施する。</li> </ul>	京都市 大学コンソーシアム京都
	③ 芸術系大学の集積をいかした文化芸術の振興	継続	Art-e Kyoto	芸術系5大学(京都市立芸術大学、嵯峨美術大学、京都精華大学、京都芸術大学(旧名称:京造形芸術大学)、成安造形大学)と京都市立小・中学校が、それぞれの教育資源を生かし、美術教育の充実や、芸術を大切に作る風土づくりを目指して連携。	H24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「連携協議会」の開催(3回程度)</li> <li>・大学・小中学校の連携事業</li> <li>・「京都芸術教育フォーラム2020」の開催(R3.1.19)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3～5回の「連携協議会」の開催</li> <li>・大学・小中学校の連携事業</li> <li>・「京都芸術教育フォーラム2021」の開催</li> </ul>	京都市
			駅ナカアートプロジェクト	京都市内の芸術系大学等と連携し、地下鉄駅に芸術系大学生の作品を展示。	H23	<ul style="list-style-type: none"> <li>【駅ナカアート2020】地下鉄駅11駅での作品展示及びアートラッピング市バス1両の走行(令和2年3月～10月)</li> <li>【駅ナカアート2021】令和3年2月に実行委員会を立ち上げ(地下鉄駅11駅での作品展示及びアートラッピング市バス1両の走行を予定。令和3年9月上旬～)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【駅ナカアート2021】地下鉄駅11駅での作品展示及びアートラッピング市バス1両の走行を予定(令和3年9月上旬～)</li> <li>【駅ナカアート2022(仮)】例年、前年度末に実行委員会を立ち上げ準備を進めるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施のあり方を含め検討中</li> </ul>	京都市
④ 京都市立芸術大学新キャンパスを核とした文化芸術創造拠点の整備	新規	芸術大学移転整備事業	京都市立芸術大学が世界を視野に更なる飛躍を果たすとともに、文化芸術都市・京都の発展に大きく貢献することを目指して、「京都市立芸術大学移転整備基本計画」(平成29年3月策定)に基づき、平成29年度から設計に着手しており、令和5年度の供用開始を目指して、引き続き、移転整備事業を推進。	H29	解体等の関連工事の実施	新キャンパスの建築工事に着手	京都市	

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(3) 大学をいかした文化芸術環境の向上	⑤ 「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生	新規	東山アーティスト・プレイスメント・サービス(HAPS)	若手芸術家を対象に、既存の町家や倉庫、公的住宅、小学校跡地施設や公共空間等を利用して、若手芸術家が京都のまちなかに居住し、活動しつづけることができる環境を整え、新しい創作の活力をまちの活力へ促進。	H20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手芸術家を対象とした、居住、制作、発表の場に関する総合サポート窓口相談件数:132件(令和2年12月末時点)</li> <li>・若手芸術家等に空き家を紹介し、居住・制作の場を提供:3件(令和2年12月末時点)</li> <li>・旧新道小学校を制作スタジオとして活用(全6教室、4月～)</li> <li>・キュレーター招聘の実施:2名(令和2年12月末時点)</li> <li>・芸術家×仕事コーディネート事業のコーディネート成立件数:10件(令和2年12月末時点)</li> </ul>	これまでの取組と成果を検証し、今後の事業展開について内容の検討と見直しを行いながら、地域へのアプローチと国際的に活躍する若手芸術家等の育成・支援を実施する。	京都市
			京都駅東部エリアの活性化	京都市立芸術大学等が移転される京都駅東部エリアにおいて、芸術大学や、下京涉成小学校区の5学区によるエリアマネジメントなど、地域や関係するまちづくり団体等とも連携し、文化芸術を基軸としたまちづくりを進め、地域活性化の機運を高めるとともに、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生を実施。	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「京都駅東部エリアのカルチャー」を発信。『5to9』発行(1月～3月)</li> <li>・京都駅東部エリア「京都七条通めぐりスタンプラリー&amp;アートフェスタ」中止(2月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化芸術とまちづくりの更なる融合を促し、現在、形成中のネットワークの充実・拡大を図るため、引き続き、京都駅東部エリアを含む京都市立芸術大学移転予定地周辺の地域・イベント情報を盛り込んだ広報誌により地域に向けて情報を発信する。</li> <li>・作品の展示・発表の場として地域資源を活用できるよう、コーディネートするなど、文化芸術・伝統産業の多様な担い手たちが地域の中で活躍できる場づくりにも取り組む。</li> </ul>	京都市
(4) 大学と地域との連携の推進	① 大学と地域の連携強化	充実	「学まち連携大学」促進事業	大学等の教育・研究成果の蓄積や学生の活力を地域の課題解決や活性化につなげるとともに、地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を、大学等の組織的な取組として定着させ、更に充実・発展させることを目的に、京都市内で地域と連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発・実施又は充実・発展に取り組む大学等を支援。	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年6月27日に委員会を開始し、同年7月に4件の採択を決定した(スタートアップ型:2件(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部、花園大学、京都橘大学、龍谷大学)、発展型:2件(京都橘大学、龍谷大学))。</li> <li>・採択した4大学の支援を通して、大学による地域連携の取組の推進を図る。</li> </ul>	引き続き、採択した4大学(京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部、花園大学、京都橘大学、龍谷大学)の支援を通して、大学による地域連携の取組の推進を図るとともに、「大学×地域連携サミット」を通して取組を発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(4) 大学と地域との連携の推進	① 大学と地域の連携強化	充実	京都市の部局や区役所と大学との協定締結による連携事業の推進	京都市と大学の連携事業を推進。	-	大学と連携した取組の推進に努めた。	引き続き、大学と連携した取組の推進に努める。	京都市
			大学地域連携創造・支援事業(通称:学まちコラボ事業)	魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生と地域が一体となって取り組む事業を広く募集し、助成金を交付するとともに、区役所等と協力し、学生と地域のつながりをより一層促進。【(再掲)3-(2)】	H16	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、令和2年度は事業中止	コロナ禍における対策を講じた上で活動を継続できるよう、引き続き、支援していく。	京都市 大学コンソーシアム京都
	② 大学と地域の連携事例の発信	充実	大学・地域連携サミット	大学コンソーシアム京都加盟大学における地域連携の事例や、学まちコラボ事業等における大学・地域連携の事例を広く発信するとともに、地域連携活動に関わる学生、大学教職員、地域団体等が交流する機会として開催。	H28	令和2年度は未開催。令和3年度の開催に向けて事例の整理等を実施。	令和3年11月頃に大学・地域連携サミットを開催予定。	京都市 大学コンソーシアム京都
			大学・地域連携ウェブサイトの開設	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」、各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し、新たな連携や取組の深化を促進。【(再掲)3-(2)】	R1	大学・学生と地域連携の事例等の掲載を充実させるとともに、サイト全体をより見やすくするため、案件の整理等を行った。	引き続き、地域連携に係る情報の配信を行うとともに、効果的なサイトのあり方について検討を行う。	大学コンソーシアム京都
③ 学生の力をいかした住民自治の活性化	新規	大学生の力を生かした田中宮市営住宅における住民自治活性化	田中宮市営住宅(伏見区)に学生が入居し、自治会活動に参加することで、地域コミュニティの活性化を促進。実施に当たっては、大学、当該市営住宅自治会及び本市が連携協定を締結し、事業を推進。	R1	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施事業の規模縮小及び延期を行った。 ・関係者協議については、オンラインで実施した。	・更に1戸の住戸を追加運用し、事業拡大を行う(合計で7名入居予定)。 ・引き続き実施事業の協議については、オンラインで行う。	京都市	

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(5) 小中高 大連携 の推進	① 教職員交流企画の実施	新規	高大連携教育 フォーラム	高大連携・接続に関する国内動向の情報共有と京都地域における取組の情報発信を目的として、京都府内外の高校教職員、大学教職員等を対象とした高大連携教育フォーラムを実施。	H15	第18回高大連携教育フォーラム (オンライン開催 12/5・12/6 参加者数:227名)	引き続き高大連携教育フォーラムを開催する。なお、実施にあたっては、文部科学省及びその審議会である中央教育審議会の「高大接続改革」の動向を踏まえ、高等学校、大学双方の視点からのテーマ及び企画内容を検討する。 また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸に、可能であれば一部対面での開催も考える。	大学コンソーシアム京都
			教職員交流企画の 実施	「高大接続改革」の推進が求められている中、各校が抱える課題の解決や教育改善に資するため、学校や設置者の別を越えて、教育上の工夫や悩みなどを共有し、解決に向けて交流する場として「京都高校教員交流会」を実施。	H30	京都高校教員交流会(オンライン開催 計3回) * 通常とは異なる緊急特別企画として別途1回実施(オンライン開催 5/14)	引き続き京都高校教員交流会を開催する。なお、実施にあたっては、安定的な実施となるよう高校現場や過年度参加者のニーズを踏まえ、企画の検討を行う。 また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸として考えている。	大学コンソーシアム京都
	② 高大社連携キャリア教育 企画の充実	充実	高大社連携キャリア 教育企画	高校生と大学生のキャリア発達を促すことを目的として、テーマを設けて高校生・大学生・社会人といった世代間や学校間を越えて対話し交流する「高大社フューチャーセッション」を実施。 【(再掲)3-3】	H30	・高大社連携フューチャーセッション(オンライン開催 11/15) 【参加者数:高校生16名, 大学生21名(内訳:一般参加者 高校生4名, 大学生15名 実行委員参加者 高校生12名, 大学生6名) 振り返り会(オンライン開催 1/30)	引き続き高大社連携フューチャーセッションを開催する。なお、実施にあたっては、より多様な高校や大学からの参加者増のために、各校の行事等の情報収集を踏まえて、広報期間や実施時期等に配慮する。また、令和2年度の参加状況を踏まえ、過年度参加実績のある高校を訪問することで、周知拡大を図る。 また、実施形態については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況にもよるが、現時点ではオンライン開催を基本軸に、可能であれば一部対面での開催も考える。	大学コンソーシアム京都

柱5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(5) 小中高 大連携 の推進	③ 学校・幼稚園における学生の活躍の場の創出	継続	「学生ボランティア」 学校サポート事業	「大学のまち・京都」の特性を活かし、大学との連携のもと、教職を目指す学生を中心としたボランティアを学校・幼稚園に派遣し、各教科やクラブ活動の指導補助などの様々な支援を実施。一人一人の子どもに対するきめ細かな指導が充実し学校教育活動が一層活性化するとともに、教職を目指す学生の意欲・資質を高めることにより、将来の学校教育を担う教員の確保と養成に貢献。	H15	学生ボランティア協定締結大学等数135校	引き続き、実施	京都市
	④ 産学公連携による教育システムの研究と発信	継続	京都教育懇話会	新たな次世代教育モデルの創造・構築に関する研究を深め、先進的な取組を京都から全国に発信するため、産学公で構成された京都教育懇話会の活動を推進。	H20	・京都教育懇話会(勉強会)の開催(5回程度)	・「京都21世紀教育創造フォーラム」の開催 ・年4～5回の京都教育懇話会(勉強会)の開催	京都市
			京都こどもモノづくり事業	産学公連携のもと、「ものづくり都市・京都」の特性を生かし、子どもたちがモノづくりに関して学んだり、体験したりする機会を創出・提供。	H21	○京都モノづくりの殿堂・工房学習…新型コロナウイルス感染症のため中止したが、探究館職員が学校に直接出向き、出前授業「京都モノづくり体験学習」を実施(51校、3,143名) ○殿堂の一般公開…延べ457名が来館。 ○京少年少女モノづくり倶楽部…登録会員数3,711件及び講座数96団体281件。 ○「トイ・コン チャレンジ」…小学校3～6年生を対象としていたが、緊急事態宣言発令のため中止。	○出前授業「京都モノづくり体験学習」 ○殿堂の一般公開 ○京少年少女モノづくり倶楽部…更なる登録会員数及び講座数の拡充。	京都市
⑤ 京都学生広報部への高校生の参画の促進	新規	京都学生広報部	中高生と直接交流するイベントを開催するとともに、京都B&Sプログラムへ京都学生広報部の学生が参加し、修学旅行生に対して、ウェブサイト「コトカレ」等のPRを実施。	H27	大学コンソーシアム京都において開催する高大連携フォーラムの実行委員に京都学生広報部員が参画し、高校生との交流を図った他、北野天満宮の協力による合格祈願絵馬プロジェクトにおいて、全国の受験生に向けてプロジェクトへの参画を促した。	引き続き、京都B&Sプログラム等をおして、京都学生広報部と中高生が直接交流する機会を創出する。	京都市 大学コンソーシアム京都	



柱6 国内外への魅力発信の強化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(1) 「大学のまち京都・学生のまち京都」の中高校生・保護者等への魅力発信	① 修学旅行生とその保護者等を対象としたPR	新規	街全体がキャンパス 学びの都 京都B&Sプログラム	全国から修学旅行で京都を訪れる中高生に現役大学生が観光地や大学キャンパスと一緒に街歩きし、京都の街・大学の魅力を伝達。	H26	・催行件数は1件。中学生51名の生徒が大学生ボランティアガイド9名の案内で京都のまち歩きを行った。 ・568名の大学生ボランティアが登録している。 ※1月末現在	引き続き、学生ボランティアの確保に取り組み、京都の大学への関心を高め、京都の大学へ進学する学生の獲得につなげる。	京都市 大学コンソーシアム京都
			京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	京都B&Sプログラム等を通じて、修学旅行生等を対象に京都の学生生活の魅力を発信した。	引き続き、京都B&Sプログラム等をおとして、修学旅行生に対する京都の学生生活の魅力を発信する。	京都市 大学コンソーシアム京都
			きょうと修学旅行ナビの運営	テーマ別モデルコースの紹介や、修学旅行関連資料の提供など、京都への修学旅行をサポートするウェブサイト運営。	H19	京都市内班別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営した。 きょうと修学旅行ナビにおいて、新型コロナウイルス感染症の特設ページを開設し、情報発信を行った。	京都市内班別自主行動のコースづくり等の事前学習の充実を図るため、きょうと修学旅行ナビを運営する。 きょうと修学旅行ナビにおいて、修学旅行関係者のニーズを踏まえた新型コロナウイルス感染症に関する情報発信を行う。	京都市
	② 学生による京都で学ぶ魅力の発信	充実	京都学生広報部	ウェブサイト「コトカレ」やSNS等を活用し、全国の中高生を対象に、京都の学生生活の魅力を発信する。また、企業等とタイアップした企画や中高生と直接交流するイベントを開催。	H27	・ウェブサイト「コトカレ」の他、SNS(Twitter, Instagramなど)を積極的に活用し、中高生に京都の学生生活の魅力を発信した。 ・よしもと祇園花月との連携企画や、北野天満宮協力の下、受験生を対象にした合格祈願絵馬プロジェクトを実施した。	引き続き、学生目線による大学の学生生活の魅力発信を充実させるとともに、企業等と協働した取組を展開する。	京都市 大学コンソーシアム京都
	③ 現役学生の保護者や卒業生、観光客等、幅広い層を対象とした情報発信	充実	京都版スタディ・ツーリズム	京カレッジや各大学の公開講座等の情報を、東京から幅広く発信することにより、京都で学ぶことを目的とした来訪を促進。	R1	京カレッジの情報等について、大学コンソーシアム京都のウェブサイト等で発信した。	引き続き、ウェブサイト等を活用した発信を実施するとともに、東京からの情報発信についても行う。	京都市 大学コンソーシアム京都

柱6 国内外への魅力発信の強化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(2)	① 留学生誘致に向けた「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力発信	充実	全国から京都へ！留学生の戦略的誘致事業	<p>更なる留学生誘致をより戦略的に進めていくため、関係機関と連携し、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした、京都の大学等説明会、留学生を対象とした京都の学び体験ツアーや日本語学校の教職員向け京都の学び体験ツアー等誘致活動を実施。 【(再掲)2-(1)】</p>	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏向け京都進学説明会を対面からオンラインに変更開催(12校で留学生計564名)した。</li> <li>・留学生の京都学び体験ツアーはコロナ禍により見送った。</li> <li>・首都圏の日本語学校の教職員向け京都学び交流ツアーはオンライン交流会に変更開催(首都圏:9校, 京都側:10校)した。</li> <li>・誘致活動のためのオンラインコンテンツ強化のため「留学生ショートムービーコンテスト2020」を開催(応募作品数:51)した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏を中心として、京都進学説明会についてはオンラインを基本とし、留学生・教職員のツアーについては状況を見極めながら対面実施(難しい場合はオンライン対応等)できるよう取組を進める。</li> <li>・留学生ショートムービーコンテストについても引き続き実施する。</li> </ul>	京都市大学コンソーシアム京都
			留学生PRチーム	<p>京都で学ぶ現役留学生で構成するPRチームを創設し、出身国等における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報について現地向けに発信。 【(再掲)2-(1)】</p>	H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役留学生による京都の留学情報を現地に発信するPRチームの運営(7箇国・地域、9名)</li> <li>・学生アルバイトの感染予防のため在宅勤務も活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役留学生のPRチームによる、日本留学の情報発信</li> <li>・誘致や交流関係事業において体験談・パティ・翻訳等の取組を実施</li> <li>・引き続き状況に応じて在宅勤務を活用</li> </ul>	京都市大学コンソーシアム京都

柱6 国内外への魅力発信の強化

項目	具体的な取組	分類	事業名	事業概要	事業開始年度	令和2年度進捗状況	令和3年度計画	実施主体
(3) 大学・市民向け広報の充実	① 市民向け広報の充実	充実	地域連携ウェブサイトの運営	大学地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」において、「大学地域連携創造・支援事業」(学まちコラボ事業)や「学まち連携大学促進事業」,各大学における独自の地域連携の取組事例などを発信し,新たな連携や取組の深化を促進。 (再掲)3-(2)	R1	大学・学生と地域連携の事例等の掲載を充実させるとともに,サイト全体をより見やすくするため,案件の整理等を行った。	引き続き,地域連携に係る情報の配信を行うとともに,効果的なサイトのあり方について検討を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都
	② 「大学のまち」「学生のまち」の更なるPR	新規	シンボルマークの策定	「大学のまち」「学生のまち」の認知度向上に向け,シンボルマークを策定し,京都の魅力を発信。	-	-	方向性について検討を行う。	京都市 大学コンソーシアム京都
	③ 大学・学生向け広報の充実	充実	学生向けアプリ (「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリ)の開発・活用	京都でしか味わえない学生生活を実現するための各種取組を,学生に直接かつ確実に届ける「大学のまち京都・学生のまち京都」アプリを活用し,「京都学生広報部」や「輝く学生応援プロジェクト」,「京都学生祭典」等の取組に学生を引き込み,学生の主体的活動を促進し,京都のまちの活性化を推進。 (再掲)1-(2)	R1	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け,学生向けの各種支援策や,感染拡大防止に向けた学生等への注意喚起について,アプリを活用し,発信している。 ・新型コロナウイルス感染症に係る情報発信に加え,京都市や大学コンソーシアム京都,経済団体等が取り組む学生向けの各種情報,学生団体・サークルにおける活動内容やメンバー募集等の記事をニュースで発信することにより,学生の主体的な活動の広報支援も行って	コロナ禍においても,引き続き,京都市や大学コンソーシアム京都,経済団体等が取り組む学生向けの各種情報,学生団体・サークルにおける活動内容やメンバー募集等の記事をニュースで発信することにより,学生の主体的な活動の広報支援していく。	京都市 大学コンソーシアム京都